



未来への発信

D N A ・ さくら組

004 Message・開会挨拶 運営委員長 松田英文

005 Message・卒業アルバム 運営委員長 伊在井みどり

Message・大切なモノ 運営副委員長 森嶋将隆

006 会長挨拶・卒業生に期待する 同窓会 会長 森川幸江

007 祝辞・同窓会総会をお祝いして 岐阜高校校長 鹿野孝紀

008 総会式次第・懇親会プログラム

013 特集① 未来への発信

江見 朗／中川貴雄／戸田達史

東明 裕・有美／加藤孝明／小林住彦

033 恩師より Sakura 達へ

大場民夫／安江雅和／大野国土／渡辺正昭／中谷達美／筑間房子／鮫島登美子（故人・追悼文）

045 特集② 座談会・未来へ残したい 岐阜

057 **運営委員ひとこと集・君は告リコ**

事務局&財務部／総務部／広告部／会報部／動員部／会場部

071 **岐高DNA・インフオメーション**

072 近況 在京（首都圏）同窓会

073 科学の甲子園

074 在校生部活動だより

076 ぎふ清流国体候補在校生に聞く

080 創立140周年記念事業概要

081 平成24年度大学合格者数

087 **特集③ 未来へ唄え！さくら組**

088 岐阜高校 校歌

089 応援団団歌／凱旋歌

090 岐高女校歌／姫小松

091 国体ソング はばだけ、未来へ

092 岐阜県民の歌

093 **総会アトラクション解説・シャンソンと私**

097 **協賛広告 Contents 集**

098 協賛広告インデックス

100 岐阜市内中心部ポイント Map

189 **同窓会総会議案 規約・名簿**

190 第1号議案（平成23年度事業報告）

第4号議案（平成24年度事業計画） 第3号議案（役員案）

平成23年度決算報告（第2号議案）

平成24年度予算案（第5号議案）

平成23年度総会決算書

平成24年度総会予算（案）

同窓会規約

運営委員会委員名簿

208 編集後記 あとがき・吾も告リコ

開会挨拶

今年と同窓会総会には多くの皆様にご参加を賜り、まことにありがとうございます。今年も同窓会総会の運営に携わった委員を代表してご挨拶申し上げます。

今年度の運営に関しては従来と異なる点が多いため、例年なら必要のない運営関連の報告をいたします。

今年度は、既成路線を踏襲するだけではやはり甲斐がないという考えを持つ人が少なからずいたせい（単なるヘソマガリかもしれません）、企画するに当たっては昨年までとは大幅に異なる仕組みを各所に取り入れました。

会場を20年以上続いた岐阜グランドホテルから岐阜都ホテルに変えたこともその一つです。岐阜グランドホテル殿に大きな落ち度があったからではありません。ただ、会費で会場費が賄い切れていなかった状況が続いておりましたので、これを改善したいという思いがありました。

ゼロから運営を考え直すというポジションから他にも同クラスのホテ

ルがあることを視野に入れると、端から排除をするのではなく比較の対象にしようと考えたのは自然なことでした。

新たな選択肢を増やすきっかけにもなるという点を重視し、コストや利便性など総合的な判断から決定いたしました。今までの長いお付き合いも大事にするべきですし、決して価格面での競争だけが目的で会場の選択肢を増やしたわけではありません。来年以降は新たな視点から評価をして決定をしていただければよいでしょう。

次に、利便性の向上のために、従来の郵便局のみの支払窓口をコンビニ収納と組み合わせた支払方法に変更しました。今や、コンビニエンスストアの数は郵便局の2倍以上ですから、支払場所へ足を運びやすくなったのではないのでしょうか。

会報誌の編集につきましては、外部のデザイナーとの共同作業で、「読む気になる」紙面作りを目指しました。協賛広告をお出し頂いたク

ライアントのメリットを向上させるために、内容の協議や掲載頁の配置、地図とのリンクなどの新しい要素も取り入れました。

さて、今年のテーマは「未来への発信」です。昨年は「未来へのプロムナード」でしたね。見えていない未来が光り輝く希望に満ちたものであることを期待した未来志向が続きましたが、同窓会の本質は「過去への回帰」かもしれません。

過去を振り返ること、思い出すこと、決して後退することでも進歩が無いことでもありません。過去の記憶が土台となり組み合わせられて新しいものが生まれることもあります。

同窓会などで同窓生と当時の出来事や感情を回想し語り合うことは記憶のデータベースである側頭葉が活性化し、当時に思い出して涙を流すことは大脳辺縁系が活性化するなど、老化防止にも大いに役に立ちます。大先輩方も心置きなく過去にドップリと浸かって脳の若返りを図って頂ければ幸いです。

松田英文（昭和44年卒業）

私が卒業した昭和44年は、全国に吹き荒れた学園闘争の余波で東京大学の入学試験が中止になるという前代未聞の出来事が起こりました。そのためにも多くの同年代の受験生が多大な精神的、実利的な影響を受けることになりました。その後の人生への影響も少なからず生じたかも知れません。思い出したくない記憶のひとつかもしれません。思い通り行かたつもりになった人もいるかも知れません。大学へ入れば、すべての学生が左翼で無ければカッコ悪かった時代でした。バリケードをくぐって大学構内に入った時代はすでに40年以上前の遙か彼方になりました。同窓会という過去へのゲートが無ければ思い出すことも希な記憶です。

一人ひとりが持つ歴史のエネルギーが集まり発散されるのが同窓会の醍醐味です。年代を超えて多くの同窓生と交流を深め、年齢に拘わらず明日への創造の糧になればと願っております。

卒業アルバム

伊在井みどり(昭和54年卒業)

Mさんは、のどのつかえを訴えて外来を受診され、すでに進行した食道がんを患われておりました。手術なんかしないと張り張るところを何とか説得しましたが、徐々に食事もとれなくなり、手術のための入院待ちの数日間、訪問診療により点滴を行いました。自宅に何うと、起き上がる力も無くなってきたMさんが、わざわざ、岐阜高校の卒業アルバムを出してこれ、私の叔父と岐阜高校の同級生で親友であったと話され、「懐かしいなあ。これがおれ、これがあいつ(叔父)。」野球部の写真を何枚も見せて下さりその時の懐かしそうなことといたら。そのかたにとつて高校時代は人生で最も輝いており、最も楽しい時代だったのです。入院前日、「ありがとう。生きて帰ってきたら、また来てくれよ」と痩せて骨ばかりになった腕をいっばいに伸ばして手を握って別れを惜しみ、「今度入院したら、もう家に帰れん気がする」と遠い目で言われました。その言葉通り、術後帰

らぬ人となつてしまいました。岐阜高校の思い出と卒業アルバムをこんなにも大切に、後輩である私のもを頼って来ていただいたのに何もできませんでした。丁度そのころ同窓会総会の役員の仕事の依頼があり、きつとMさんの希望だったのでしようと考えお引き受けいたしました。仕事の上で、孤独を感じ、全てうまくいかない事にうんざりし、自分には全く助けがないと感じるとき、同じ場所で学生生活を送った仲間がいること、困った時に助けてくれると考えることは、何よりも心強いことです。遠くにいると同郷であるとか、同窓生であるとかの繋がりが、また新たな繋がりを生み、新しい社会においても、その繋がりが信用となり、仕事における潤滑油等としての役割を果たしてくれまます。同じ時代をあの校舎で過ごし、青春期の悩みを分かち合い支えあった同窓生の架け橋となり、今後、後輩のために、少しでも支えとなればと強く思います。

大切なモノ

森嶋将隆(平成1年卒業)

土曜の午後、仕事で車を走らせていました。客先は長良橋を北に降りた辺り。都通りを北上して大縄場大橋の脇道に入り、ちよつと狭い坂道を上って長良川左岸の堤防道路に上がると、右手に私達を通った頃とはすっかり見違えた岐阜高校の新校舎が目についたなあ」と呟き、少しだけ在学中の事を思い出したりします。

勉強の話やくだらな話で訳もなく盛り上がった同級生、厳しくも優しく接して頂いた部活動の先輩方、そして本気で熱くご指導をして頂き、時には親のように真剣に叱って頂いた先生方。岐阜高校での思い出が、経験・時間が今の私の血となり肉となり今の私を支えているのでしょうか。そして卒業してからあつという間に20年余りの時が過ぎ先輩にお声を掛けて頂き同窓会の役員をさせて頂く事になりました。設営の準備の段階では久しぶりに顔を合わせる事が出来た同級生とも色々昔話をすることができ楽しい時間を過ごせました。

又、在校生や卒業生の各界での目覚ましい活躍を聞き刺激を受けると共に大変嬉しく思いました。何より今の自分を形成していく上で大切な役割を果たしてくれている岐阜高校への何らかの恩返しが出来ると言うことに喜びを感じております。関わって下さった方みなさん仕事・子育て等あるにもかかわらず献身的に取り組んで下さいました。

本日はお陰様をもちまして総会・同窓会の開催の運びとなりました。短い時間ではありますが、みなさんがずっと持っている「大切なモノ」の価値を再認識し、今後、再び輝きを強く放つ機会にして頂ければ設営側としてはこの上ない喜びであります。又皆様も今後、同窓会設営に関わる機会があれば積極的に参加して頂きたいと思えます。あなたの「大切なモノ」が再び輝きを取り戻す為にも。



卒業生に期待する

岐阜県立岐阜高等学校同窓会 会長 森川 幸江

平成二十四年度の岐阜高等学校同窓会が多数の同窓生の皆さまの御出席を頂き盛大に開催出来ましたことを心より御礼申し上げます。

本年度も古田知事、細江岐阜市長、松永海津市長をはじめ各界で御活躍の同窓生の方に御出席を頂きましたこと厚く御礼申し上げます。今年も三五七人の岐阜高校同窓会への新入会員を迎えました。活躍を期待します。

昨年完成しました素晴らしい白垂の校舎と体育館そして同窓会からの寄付により設置されましたエアコンと岐阜高校の在校生は最高の環境で学んでいます。

新校舎完成を記念して岐中昭和十三年卒業の大先輩からの桜も東京の同窓会からの寄付の桜も今年咲きました。ケヤキ並木はこれから岐高の歴史とともに大きくなるでしょう。

後輩の在校生の活躍は素晴らしいものがあります。スポーツ、音楽、合唱そして経済や科学のクイズ、いずれも岐阜県の代表として全国大会へ出場し、優秀な成績でした。

同窓会としても誇らしい限りです。

東北の震災と原発事故からの復興が道筋さえ示されないのを見るにつけ、今の政治への苛立ちを感じますし、経済の不安定さに今後について不安を感じざるを得ません。

岐阜高校の卒業式で卒業生の答辞で語られたように、卒業生達は将来への希望やこれから日本を背負っていくのだという意欲に満ちています。そのような若者たちの夢に応えられる日本や岐阜であってほしいと思っています。

このような日本で困難な状態にある人に、惜しみなく手を差し伸べる

日本人が世界中から高い賞賛を受けています。

今の若者は「ジコチュー」で他人のことに関心がないと酷評を受けて来ましたが、人は他人のために役立ちたいという気持ちがあるに役立ちたいと言われています。今、その本能が頭をもたげているでしょう。この様な若者を育てている日本もまだ捨てたものでないと思っています。

同窓会は親睦会で戦前卒業された大先輩と大学を卒業したばかりの二十二歳の後輩が世代を超えて集い、語り合う場です。

楽しい場となりますことを期待します。

最後になりましたが、お忙しい中、本日の総会開催のためお骨折り頂いた昭和四十四年、五十四年、平成元年卒業の運営委員の皆様にご心から感謝申し上げます。



「同窓会総会」をお祝いして

岐阜県立岐阜高等学校 校長 鹿野 孝紀

平成二十四年度の岐阜高校同窓会総会が森川幸江会長様はじめ役員・運営委員の方々の尽力で、多数の会員のご出席を得て盛大に開催されますことを心からお祝い申しあげます。また、平素より本校の教育に格別のご理解とご支援を賜り感謝申し上げます。

平成二十一年の特別教室棟改修に始まった新校舎改築計画も、一昨年の夏の管理棟・普通教室棟の完成、今年二月の新しい体育館・武道館の完成、そして、三月には校舎前のプロムナードの全面的な完成によって一連の新校舎改築計画が無事に終了し、県下で最も斬新なデザインの新しい岐阜高校がその全容を現しました。三月一日、新体育館での初めての卒業式が行われ、卒業生の晴れの門出を祝うことができました。また、四月九日には満開の桜のもと、四百名の新入生を迎え、新校舎・新体育館での新たな学園生活が始まりました。今、校舎前のプロムナードのケヤキの並木にも若葉が芽吹き、岐阜高校の新しいシンボルになる予感があります。このようなめぐまれた環境のもと、岐高生は「百折不

撓・自強不息」の校訓のもと、文武両道をモットーに輝かしい歴史と伝統を受け継ぎながら、日々勉学に、部活動にと頑張っています。今春の進路結果は、同窓会誌にお示しさせていたいただいたとおりですが、部活動では、運動系・文化系ともに限られた時間を有効に活用して、多くの部活動が活発に活動し、各種大会・コンクールで様々な賞を受賞するなど、県内外で活躍しています。昨年から

文部科学省の肝いりで始まった「科学の甲子園」にも初代岐阜県代表として出場できました。さらに、運動系部活動では、陸上競技部や水泳部の生徒がインターハイや国体への出場を果たし、また、今年岐阜県で開催される「ぎふ清流国体」においても、陸上、女子サッカー、水泳、シンクロ、ゴルフ競技において強化指定選手に選ばれる生徒が出るなど、様々な分野で躍動しています。文化系部活動においても、自然科学部生物班が絶滅危惧種カスミサンショウウオの保護活動等に取り組み県内外で高い評価を受け、日本魚類学会で大人の研究者にまじって発表の機会を与えられる榮譽を受けたり、クイ

ズ研究部が二年連続で岐阜県代表として「エコノミクス甲子園」に、そして囲碁・将棋部が全国大会に出場するなど、様々な場で頑張っています。

さて、本校は、今年で創立百三十九年目を迎え、来年はいよいよ創立百四十周年を迎える年になりました。一連の新校舎改築終了により、平成二十五年の創立百四十周年を迎える準備が整いました。同窓生の皆様、ぜひとも新しい母校の校舎を一度ご覧学ください。私も岐高の昭和四十六年三月の卒業生でございます。微力ではありますが、母校のため、後輩のために岐阜高校の教育の益々の充実・発展に精一杯努めさせていただきますので、今後とも、力強いご支援・ご協力をよろしくお願いいたします。

最後になりましたが、本年度の総会のお世話いただきました運営委員長をはじめ、当番幹事の昭和四十四年、五十四年、平成元年卒業の皆様のご尽力に感謝し、併せて会員の皆様方のご健康とご多幸、そして同窓会の益々のご発展を心から祈念しまして挨拶とさせていただきます。

平成 24 年度 岐阜県立岐阜高等学校同窓会 総会・懇親会 式次第

平成 24 年 6 月 10 日(日)

於 岐阜都ホテル

《総合司会:河口素子(平成元年卒)が進行案内》

1. 総会 (11:00 ~12:00)

開会の辞

黙祷(物故者の冥福を祈る)

同窓会会長挨拶 森川 幸江

学校長挨拶 岐阜高校校長 鹿野 孝紀 様

議案審議 ※

第 1 号議案 平成 23 年度事業報告について

第 2 号議案 平成 23 年度決算報告ならびに監査報告

第 3 号議案 役員改選について

第 4 号議案 平成 24 年度事業計画案について

第 5 号議案 平成 24 年度予算案について

御祝辞 岐阜県知事 古田 肇 様

感謝状贈呈

閉会の辞

2. 懇親会 (12:00~14:00)

開会挨拶 運営委員会委員長 松田 英文

鏡開き

乾杯 在京(首都圏)同窓会会長 宮本 悠美子

：
：
(ご歓談)
：
：

【アトラクション】
撰 和彦(昭和 54 年卒)と
グループミュージシャン演奏による
シャンソン&ポップス

平成 25 年度運営委員会 運営委員長紹介 矢島 潤一郎(昭和 45 年卒)

校歌斉唱(ピアノ伴奏)

閉会のことば 運営委員会副委員長 伊在井 みどり

以上

※『議案第 1 号～第 5 号』は、190 ページ以降に掲載してあります。



未

特集① 未来への発信

“さくら組”のDNAは、さまざまな分野で花開き実を結んでいます。
世界を相手に、日本国内を舞台に、また、地域社会に深く溶け込んで…
未来へ発信する「岐阜のさくら」此処にあり。

すべては「人間観」から 【銀のさら】

怒らない経営

「仕事をするのに、怒りや必要はない。ひとつの失敗にも、怒らないことで前向きなアイデアがでてきます。失敗に対しては怒らずに本質だけを伝えればいいことなので」。



そう話すのは、江見朗さん、「レストラン・エクスプレス」社長。業界ダントトップシェアを誇る宅配寿司「銀のさら」は同社のブランド。岐阜高校卒業後、英語を勉強するために渡米。合法的に働き永住権を得るために「寿司屋」として働くことを選択。永住権取得後、一身上の都合で帰国して始めた商売がサンドウィッチ屋。そのかわら、宅配をキーワードに「寿司」に注目し、自分の理念に基づいた「改革」を繰り返して現在に至る人物です。

仲良しは合理的

「怒られてがんばれるとかいうのは刷り込みのようなもの。自分達もそう育ってきているし、高校のときもよく叱られたしね。しかし、怒られた時はいい気持ちにはなれないでしょ。怒らなくても伝えるべきことは伝えられるんですよ。ならば、怒

らずに前向きなことを考えたほうが幸せであり合理的だと思うんですね。仕事の世界では一人でやれることは物理的に限られているから、力を合わせてやっていかねばならないことは、同じ方向性を持ち仲良くやっていけることで業績も上がります。つまり、仲良しは合理的であるということです」。

仕事は合理性の追求

思想だけを唱えるのではなく、経済的合理性をしっかりと関連付けて結果を出している同氏の理論は説得力を感じますが、「失敗しても怒られない」と、人間は横柄になりませんか、そう江見さんに問いかけると「確かにそうくる人もいます。そういう時もまず『そういうあなたが大好きだし敬意を払う』ということをしつかり伝えます。そして自分の伝えたいことも論理的に考えて伝えて



シェアトップの宅配寿司「銀のさら」。圧倒的な商品力と、人間観に基づくヒューマンスキルで地域の趣向にも的確に対応する。



いきます。どのような人間でも、肩書きや物理的な付加価値を取っ払ったら、同じ命を持った人としての価値はすばらしいものであり平等なので、ほめることができます。

自分も凡人なので怒ってしまう時もありますよ。そのときはやはり論理性が崩れてしまうので合理性も損なわれる上、気持ちよいわけがないので、後で謝ります。仕事というのは、

論理的な情報を基にこつこつと思考・行動を積み上げることと合理性を追求していくことなので、怒ることとは必要ないですね。仕事として何かをしようとしているときはもっとも合理的で効率の良い関係を作らないと勝てないでしょ。併せて、人間は笑っている時のほうが幸せなわけで、つまり、幸せであり合理的であるほうが、怒って合理性が崩れるよりいいですよね」。

人間力

どれだけ一人ひとりがすばらしい能力を持っているか、その人間力が発揮できるかどうかが最重要と考える江見さん。

「技術的なことをきちんと教えていく事も当然大事ですが、その教育+人間としてどういう考え方をもちどんな生き方をしているのか、例えば感謝の気持ちを持つとか決まりを守るとかといった、そんな当たり前のことが大切になってきます。『誰にでもできることなのに誰もそこまですらない。ならば誰にもできることを誰よりも徹底してやる』のです。要は、真面目にやっつこうというところなんです。我々の仕事は『幸せ』を宅配しているのですから」。

宜なるかな

高校時代は、何かにつけて不安で何とかせなあかんと思っていたという青年だったそうですが、テレビ番組の「カンブリア宮殿」に出演の際、作家の村上龍氏をして「ギラギラしたものを感じさせない、カンブリア宮殿では出会わないタイプの人」と言わしめた江見さんは、アグレッシブな感じの村上龍さんとのやり取りは楽しかったと話します。そして、普通のおばさんの取材にも、村上龍さんや小池栄子さんに対するそれと同じ姿勢・笑顔・態度で対応してくださいました。「すべては「人間観」から」が本物であると感じた時間でした。（聞き手・村橋祥衣）



江見 朗

●えみ あきら

レストラン・エクスプレス社長宅配寿司「銀のさら」を中心にデリバリー展開を営む会社を起業経営。昭和54年卒。

図1：地上試験中の赤外線天文衛星「あかり」(JAXA)



特集①

未来への
発信

宇宙から宇宙を見る

JAXA

独立行政法人宇宙航空研究開発機構宇宙科学研究所

「宇宙から宇宙を見る」、何を言っているのかわかりにくいタイトルで申し訳ありません。これが私の現在の職業です。最初の「宇宙から」

は、人工衛星を使うという意味です。この「宇宙」は、英語だとSpaceということになるかと思えます。後ろの「宇宙を見る」というのは、天体を観測するという意味です。この

「宇宙」は、英語だとUniverseということになるかと思えます。

私は、現在、独立行政法人宇宙航空研究開発機構宇宙科学研究所というところに勤めています(ついでに大学の先生も兼ねています)。やたら長い名前です(申し訳ありません。世の中では、普通JAXA(ジャク

サ)と呼ばれているところです。最近では、小惑星探査機の「はやぶさ」で有名になりました。

しかし、この文章では、「はやぶさ」のことは話をしません(私は、「はやぶさ」には何の貢献もしていません)。それよりも、私自身が携わっている「あかり」という衛星、さらにSPICAという将来の衛星、この2つの衛星のお話をさせていただきます(と思えます)。これらの衛星は、赤外線を用いて宇宙を観測する人工衛星で、赤外線天文衛星と呼ばれています。

図1を見てください。これが私たちの「あかり」衛星です。上部の銀色の容器のなかに、口径70cmの望遠鏡が、マイナス267℃という極低温まで冷却されて搭載されています(ちなみに、この部分の試験モデルが、名古屋市の科学館に展示されていますので、よろしければご覧ください

中川貴雄

●なかがわ たかお
宇宙航空研究開発機構・宇宙科学研究所・赤外・サブミリ波天文学研究系・教授。東京大学大学院・理学系研究科・物理学専攻課程・兼任。昭和54年卒。

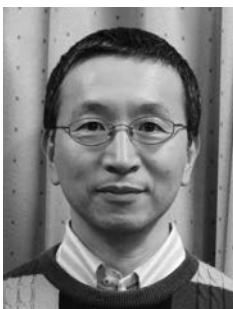
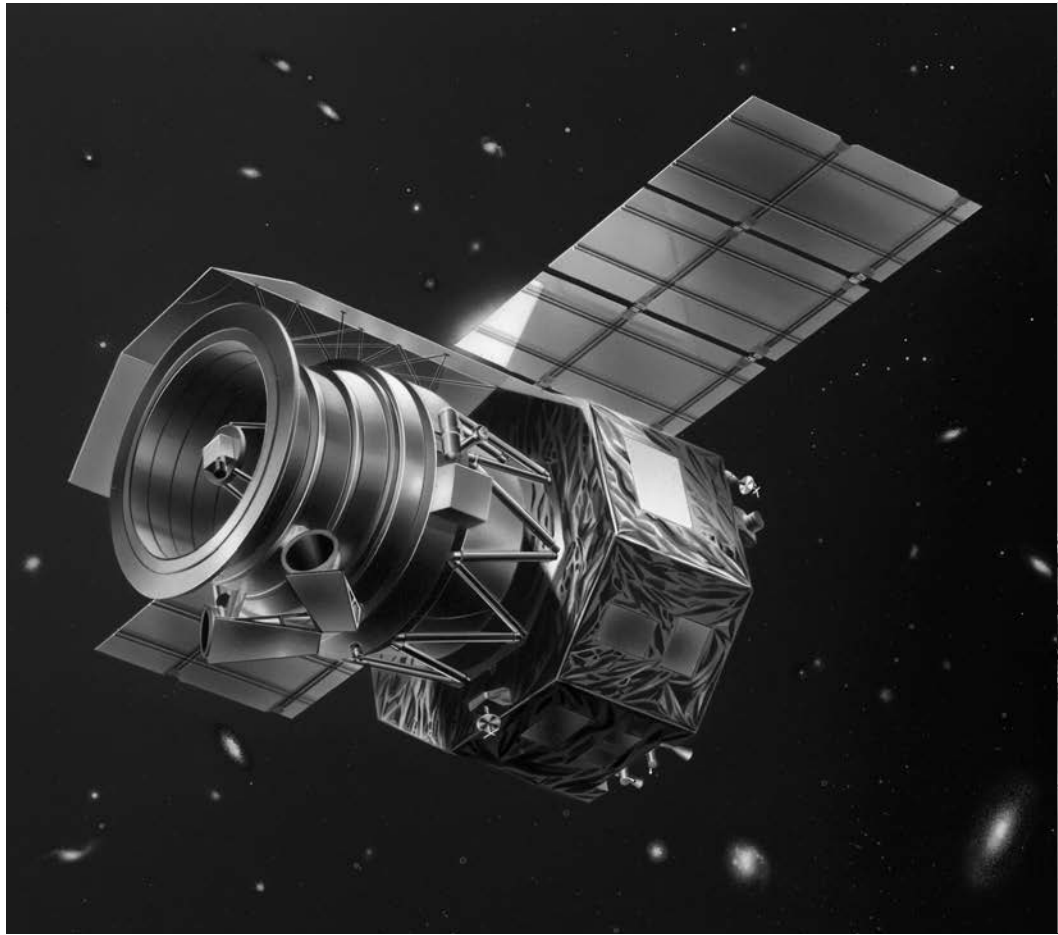


図2：軌道上の「あかり」衛星（想像図、JAXA）



さい）。この写真は、地上で試験中であるために、太陽電池が折りたたまれています。宇宙では、図2にあるように、太陽電池が翼のように展開されました。「あかり」は、2006年2月に、鹿児島県大隅半島にある内之浦宇宙観測所（種子島ではありません）から、M-Vというロ

ケットで打ち上げられました（図3）。

では、そもそも、どうして「赤外線」で宇宙を見るのでしょうか。目に見える光⇨可視光線でも星をみる

次ページ図4を見てください。これは、私の同僚を写した写真です。左側の写真が、目に見える光で写した写真、普通の写真です。一方、右側は奇妙な写真です。これが、赤外線です。赤外線は、赤外線コタツという言葉があるように、温度の高いところから強く放射されます。右側の写真では、白いところが赤外線が強いところ、黒いところが赤外線が弱いところ。顔の中でも、「おでこ」は白く写っていますので、温度が高いことがわかります。一方、耳たぶは黒く写っていますので、比較的溫度が低いということがわかります。皆さんも、自分の顔を触ってみてください。ちなみに、メガネは黒いので、赤外線を通していません。



図3：「あかり」の打ち上げ（2006年2月）（JAXA）



図4：可視光線で見た世界（左）と、赤外線で見えた世界（右）

おもしろいのは、2つの缶コーヒーです。左側の写真では2つは同じ缶コーヒーに見えます。しかし、右側の写真では、一方が赤外線で見ると輝いているのに対して、もう一方は赤外線で見えておらず、全く異なります。もうおわかりいただけるとは思いますが、赤外線で見ると見えるのが「ホットコーヒー」で、赤外線で見えないのが「冷たい

コーヒーです」。このように、赤外線で見ると、物の温度が、その物に触らなくてもわかります。

すると実は面白いことに気づきます。私たちが、普段目にして日常の世界は、実は世界の本当の姿ではないということです。私たちが目にして日常の世界は、太陽の光に照らされた世界からの反射光、上つ面の光だけをみているだけであり、日常の世界そのものが放っている光は見えていないのです。日常の世界そのものが放っている光は、実は赤外線なのです。だから、缶コーヒーのように、可視光線では上つ面の姿しか見えないために区別がつかなくなったものも、赤外線では、そのより本質に（温度に）迫ることができるのです。

それでは、太陽はどうでしょうか。私が普段見ている姿は上つ面なのではないでしょうか。いいえ、太陽の場合は、太陽自身が放っている本当の光を見えています。それは、太陽が表面で6000℃もの高温にあるためです。このような高温になれば、星が可視光線を放つことができます。

一方、それより低温の天体、たと

えば我々の日常の温度（プラス20℃）にある天体や、より低温の天体（マイナス100～200℃）になると、可視光線で全く見えず、赤外線で見ればその姿をとらえることができるということになります。

次に、図5を見てください。これはオリオン座です。左の絵が、可視光線で見えたオリオン座。見慣れた姿です。一方、右の絵もオリオン座です。しかし、全く異なる姿をしています。これは、私たちが打ち上げた赤外線天文衛星「あかり」が観たオリオン座の姿です。

先にご説明しましたように、赤外線で見えているのは、太陽よりもずっと低温の天体です。では、「あかり」が観たオリオン座の天体（図5の右）は何なのでしょう。

実は、これは、今まさに生まれつつある若い星の分布を示していると考えられています。星にも寿命があります。短命な星では、わずか数百万年の寿命しかありません（太陽は100億年もの寿命がありますので、ご安心を）。ということは、星は死ぬということですから、補給するたぬにも、星はどこかで今も生まれて

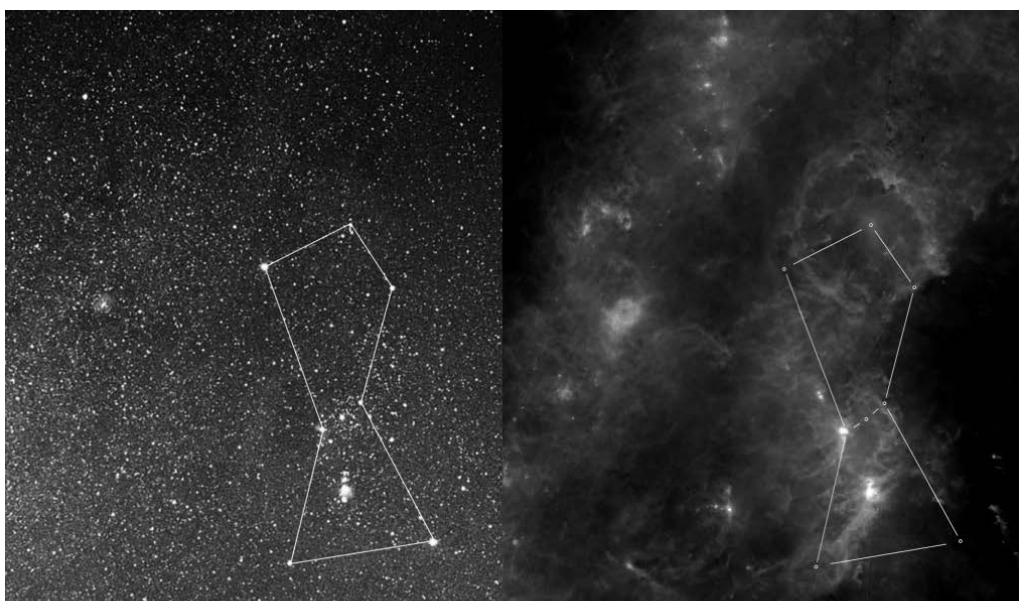


図5：可視光線で見たオリオン座（左）と、「あかり」が赤外線で見えたオリオン座（右）
光学写真提供／国立天文台 福島英雄

いるはずですよ。

星は、宇宙に浮いているガスや塵を、重力で集めてできると考えられています。重力と言うのは、我々が知っている他の力（例えば電磁気力）に比べると、非常に弱い力なのですが、遠くまで届くという特徴があります。そのため、宇宙の薄くちらばるガスや塵を、非常に遠くまで重力で集めれば、立派な星も作る事ができるといわけです。

できたばかりの星は、まだ燃料に火がついていません（通常の星は、水素などの核融合で光っています）ので、低温です。ですから、赤外線で見ると、燃料に火がついて、まだまだ周りには、材料となった塵やガスが漂っているために、その姿を直接には見ることはできません。しかし、赤外線で見れば、若いできたての星に暖められている塵やガスの放つ光を直接にとらえることができます。

と言うわけで、「あかり」がとらえたオリオン座の姿は、どこで星が今まさに生まれているかを、明確に描き出したものだと考えています。

「あかり」は先に述べましたように、2006年に打ち上げられました。そして、多くの面白い観測を行いました。ご興味がありましたら、<http://www.irisas.jaxa.jp/AKARI/Outreach/results/results.html>をご覧ください。

「あかり」は設計寿命を大きく超えて5年にわたり観測を行いました。しかし残念ながら、昨年（2011年）、電源系が故障し、惜しまれながら引退をしました。

「あかり」の成功に続いて、現在私たちは、SPICA (Space Infrared Telescope for Cosmology and Astrophysics) という次世代の赤外線天文衛星に取り組んでいます。これは、あのハッブル望遠鏡をも超える口径3.2mという大型の望遠鏡を、太陽1地球のラグランジュ点の一つL2に打上げ、マイナス267℃という極低温にまで冷却することにより、今までにない画期的な高感度の観測を可能にしようとするものです。これにより、宇宙の中でどのように銀河が誕生してきたのか（銀河誕生のドラマ）、そしてその銀河の中でどのようにして星や惑星が形成されてきたのか（惑星系のレ

シビ）、そして、その惑星の上でどのようにして生命が誕生してきたのかという、現代天文学の抱える重大課題の解明に挑みたいと考えています。2020年代初頭の打ち上げを目指しています。楽しみにして、お待ちください。

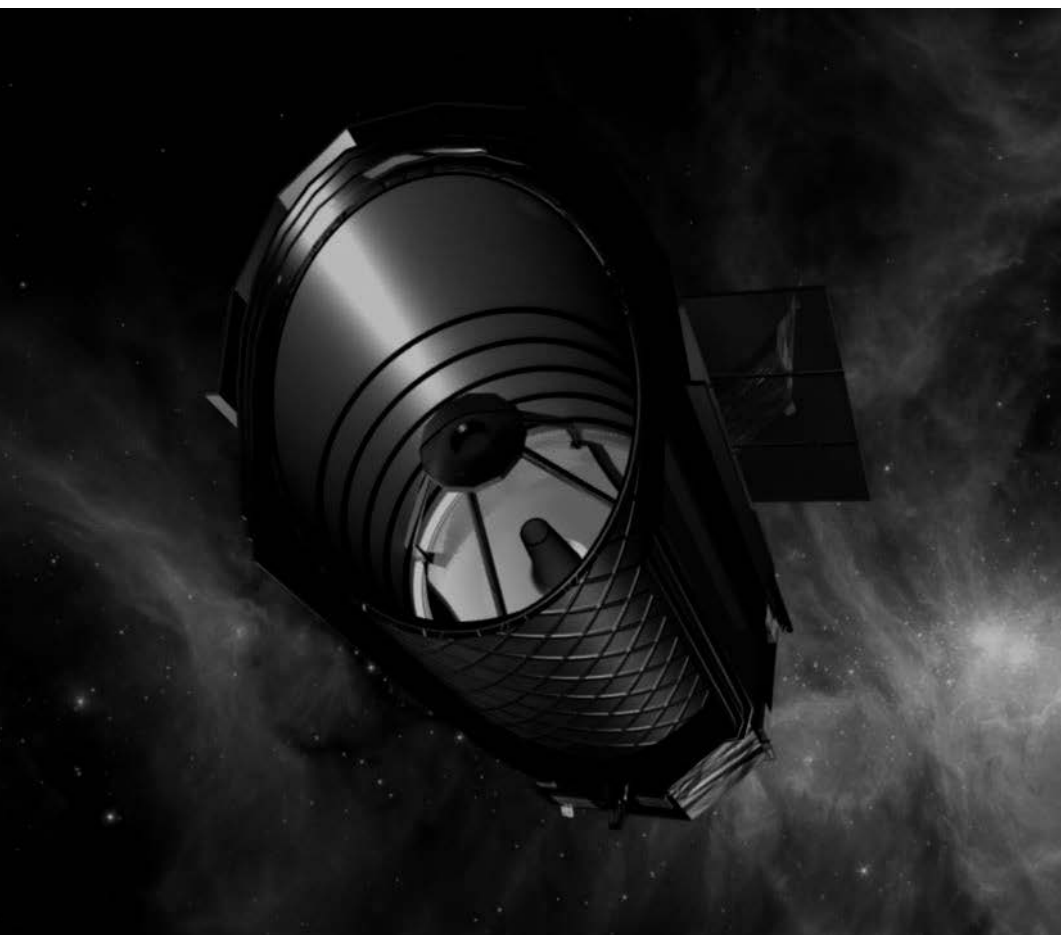


図6：軌道上の次世代赤外線天文衛星SPICA（想像図、JAXA）

雪埋梅花、不能埋香 【分子脳科学者】

早いもので岐阜高校を卒業してから33年が過ぎてしまいました。東京大学医学部卒業後、東京大学神経内科に入局し、東大病院および関連施設で神経内科の診療を行いました。

神経内科とは、精神神経科や心療内科と間違えられることもあるのですが、脳の病気により認知症状が出たり手足が動かなくなったりする病気を扱います。脳梗塞、認知症、パーキンソン病とか、筋萎縮性側索硬化症、筋ジストロフィーも対象です。

多くは原因も不明で治療法もない難病です。決してまじめな学生ではなかったのですが、教科書に、「筋萎縮性側索硬化症（ALS）…予後絶対不良である」と書いてあった事が頭に残り、研究して絶対不良をよくなるようにしたいというのが、神経内科に興味を持った理由です。

医局から派遣され勤務した筋ジストロフィー専門病院で福山型筋ジストロフィーの患者さんに出会いまし

た。この病気は生まれて間もない頃から乳児期にかけて、筋肉の力が弱く発達の遅れが見られます。筋肉の病気なのに知的発達の遅れ、ひきつけなど中枢神経系の異常を伴い、福山先生が最初に報告されたので福山型と呼びます。日本人に多く、日本人では90人に1人が遺伝子変異の保因者といわれています。お座りまでできるお子さんは多いのですが、歩行可能な子は10%以下と数少ないです。

「日本人の名前のついた病気は日本人の手でなんとかしたい」と思い、全国の病院に手紙を書き山中まで採血にいきました。中村祐輔先生（日本のゲノム研究の第一人者、この春からシカゴへ頭脳流出）のところで勉強させてほしい、と、ボスの金澤一郎教授（皇室医務主幹、よく陛下の御病状のときに答弁される）をお願いし、福山型の原因が9番染色体に存在する事を明らかにしました。

その後、東大助手、東大医科学研究所助教授に異動してからも解析を続け、1998年原因遺伝子フクチンを同定、病態解析をしてきました。

一連の仕事は幸運にも福山幸夫先生、遠藤玉夫先生とともに、2008年「朝日賞」を受賞する事ができました。同じ年に今をときめくiPS（万能）細胞でノーベル賞の呼び声高い京大の山中伸弥教授も受賞しているのです、よかったです。さらに昨秋には、ニュースや新聞などに出了たのでご存知の方もいらっしゃるかもしれません、この筋ジストロフィーがひよつとしたらアンチセンス核酸という薬で治療できるかもしれない、ことを発見しました。筋ジストロフィーの不治の病もその原因が発見されて、治療も視野に入っているという時代になってきたのです。

2000年に大阪大学臨床遺伝学教授に着任して、自分のラボをもち、本症やパーキンソン病、ハンチントン



戸田達史

●ただ たつし

神経内科専門医、臨床遺伝専門医、分子遺伝学者。平成20年1月朝日賞。平成21年4月文部科学大臣表彰受賞。神戸大学大学院医学研究科神経内科学／分子脳科学・教授。昭和54年卒。

ン病の遺伝子・病態の研究を行い、

阪大病院に遺伝子診療部を設立し、

遺伝子診療に携わってきました。そうしているうちに2008年神戸大学神経内科教授に推薦され、オリジナルである神経内科に戻ることにになりました。先の万能細胞の山中先生も神戸大学医学部出身です。私は基礎医学の分子脳科学という教室も兼任しており、臨床教室の神経内科専門医の大学院生が、基礎教室の分子脳科学教室で専門教員の指導を受けて研究を行っており、神戸に行ってもパーキンソン病の原因遺伝子を発表することができました。

またバラバラだった兵庫県内の神経内科医の同門会「雪梅会（せつばいかい）」というのを設立しました。この命名は私の好きな言葉「雪埋梅花、不能埋香」という中国の諺由来します。「梅の花はいくら雪に埋もれていても、その素晴らしい香を埋めることはできない。自分から宣伝しなくても、真に良い仕事をすれば必ず人はこれを見出す」ということで、謙虚にいい仕事をしようという意味と、同時に「わずかな現象の片鱗をたどって、未知の真理をたずねる科学者の心に通ずるものがある」という意味も含まれます。この精神で謙虚にいい仕事をしていこう

と思います。

と、ここまで堅苦しい話を書いてきましたが、やわらかい近況を報告したいと思います。仕事柄、海外出張（特に会議）はままあります。最近行ったところで気に入ったのは、モロッコの世界遺産マラケシュです。北アフリカの西側にあり白人アラブ人の街でイスラムとフランス文化でヨーロッパ女性のがれの街です。アラガンオイルなどの美肌と、タジン鍋などの美食と、美しい青のイスラム建築の街です。中心のフナ広場は年中お祭りです。100年も前からドンドコやっているでしょう。コブラの大道芸もあり。ホテルはリヤドという貴人をもてなすアラブ風の邸宅で、ハمام（イスラム風のアカスリ）もスパもよし、でした。

先年、大学医学部の同期卒業の同窓会が25年ぶりにあったのですが、それくらい年月が経っていると皆オッサンになってしまい、「誰だったっけ？」になるから、幹事が、卒業アルバムの個人写真を切り抜いて胸名札の代わりに作成していました。それを見てわれながらおどろきました。今より20キロ近く体重も少なく、その当時はやっていた髪形とともにジャニーズ系の顔をして写っている

ではありませんか（写真1）。もう1つは太った現在の私で朝日賞のと教室で着ぐるみを着ている姿です（写真2）。やはりこれではだめだ、ダイエットをしようと、汗をかいている日々です。



写真1



写真2

写真はアマルファイです（写真3）。ヨーロッパのセレブが集まるイタリ

ア南部のリゾート地でこのような美しい海岸が続いています。織田裕二主演の映画の舞台にもなりました。この地に関連する歌で、TIME TO SAY GOOD BYEという歌があり、難病にSAY GOOD BYEと言える時が来る事を祈って、今後も研究・診療に頑張っていきたいと思えます。



写真3

飛翔！アジアから世界へ 【東明兄妹】



写真上/AFCレセプションで社会貢献委員として表彰（有美さん）
写真左/インドでのビジネスパートナーと（裕さん）

東明 裕（とうめい ゆたか）さん。昭和最終年の63年に母校を巣立ち、米留学、現地でのコングロマリット勤務を経て、父親が創業した機械設備設計の会社を継承した。約2年前から、地元岐阜を拠点にインドをはじめASEAN諸国に進出、独自の哲学に基づく活発な企業支援経営で知られるようになった。

平成3年卒業の東明有美（とうめい ゆみ）さん。女子サッカー、なでしこジャパンの礎を築いた先達として知られる有美さんだが、現在は香港に居を構えアジアのサッカー興隆に尽力する。

共にアジアで活躍する「さくら組」のお二人に、兄妹としての目線でそれぞれの思いを語ってもらった。

「兄（妹）から見て評価できること
裕 妹は、幼稚園の頃から私の通うサッカー少年団の練習に毎週遊びに来ていました。少年団の活動は小学

3年生からで、またその頃は女子のチームがなかったのですが、私が出かけるとついていくといって聞かないので一緒に通いはじめたのが、彼女のサッカー人生の始まりです。い

までこそワールドカップでの優勝を経て大変な人気があるものの、当時の女子サッカーは世間から注目を浴びているスポーツではありませんでした。高校・大学生時代、プリマハムのある三重県伊賀市まで毎日練習に通い、社会人時代は、昼は社員として働き、夜は会社のクラブチームで練習をしていました。その自信を貫けること、そして最後まであきらめないことが彼女の強さであると思っています。

これは私達兄弟に共通しています
が、自分が正しいと思うとわき目をふらずに進む事があります。しかし、それは自分の生き方を持っていて、修正して丸くなるか、常にとんがっ

て時代の先端を走ろうとするのが良
いか、評価が分かれるところだと思
っています。

有美 兄の、考え方が柔軟なところ
と（体に似合わず）フットワークが
軽いところは尊敬しています。出張
続きでどんなに疲れていても、打ち
合わせや会合に数多く精神的に向
いて行く姿はすごいと思いますし、
そこでお会いした方達のお話を吸収
し自分の仕事や自分の人脈をつなげ
るのがうまいです。以前勤めていた
会社で「優秀な人材とは、自分がす
べて出来る人ではなく、引き出しを
多く持つっていて自分の引き出しを必
要な時にうまく使える人だ」と教わ
りました。兄を見ているとその言
葉を思い出します。

「勉学についてはいかがでしたか？
裕 高校時代に勉強をしている姿を
みたことは全くありませんでした。
サッカーの特待生で岐阜高校に入っ

たんじやないかと思うくらいでした。
有美 私も兄も高校時代は全く勉強していませんでした。兄が社会人になってからアメリカに留学したいと聞かされた時は「そんなに勉強してどうするのかな」と驚きましたが、今になってみると、私も現在大学院に通っていますが、これだと決めた事とことんまで追求したい、新たな知を追求したいという性質が似ているのだと思います。

—社会人として、また家庭で この先どう生きてほしいと思いますか？
裕 サッカー選手として自己の技量を磨き、またチームを勝利に導く事が目的であった選手時代の彼女から、サッカーを世に広めるための伝道師としての活動にシフトすることで、人としての深みが出てきていると思います。また結婚をし、旦那さんの生活を通じて、「闘うおばさん」の側面も強く出てきていると思います。女子サッカーでOnly Oneになり、日本サッカー協会とアジアサッカー連盟の委員として、サッカー普及のためのOnly Oneとして今も活動を続けています。この先も家庭に収まってしまうことなく、家族のサポートを得て最先端を走り続けて欲しいと思います。

有美 兄がアメリカ留学中、実家で久しぶりに再会した際「有美も世界を見た方がいい。日本にいるだけでは見られないものが世界にはたくさんある」とアドバイスをもらったのは今でも覚えています。その頃は日本代表として海外遠征も多くこなしていました。それでも兄の言葉でその頃から「世界を見る」とはどういうことなのか深く考えるようになりました。新しい考え方やチャレンジを受け入れる兄の姿勢や行動力は素晴らしいと思います。インドに進出すると決めた時の対応も早かったですし、この勢いで閉塞気味な岐阜の経済のみならず日本経済に新しい風を吹き込んで欲しいと思います。

—「さくら組」の先輩として後輩に伝えたいこと
裕 いま思うのは、学問をしていると一つの回答が存在します。しかし社会人になると回答が複数ある、もしくは存在しないような場合がほとんどです。更に、アジアを含めた他の国では、日本の常識は通用せず、日本でプラスの回答がマイナスになることもしばしばあります。国境の意味がだんだん希薄になっている今、新しい世代を担う人達には「本質を見ぬく目」が求められると思います。

おそらく今の岐阜生が社会人になるときには国の境がほとんど意味をなさなくなっていると思います。その舞台で活躍するためにも、自分の中でその判断力や真実を見ぬく目を磨いて欲しいと思います。アジアで活動した、その経験や知識を後輩に伝えることが、また私達の役割であるとも信じています。

有美 自分が見ているもの、自分が知っていることが必ずしも全てではないし、必ずしも正しいわけではない、という視点を持ち合わせて欲しいと思います。時代は常に変化しており、変化のスピードや規模は早く、大きくなっています。その変化に対応するために、様々な視点から物事を見る能力が求められており、そういった意味で海外との交流は新たな視点を得るための助けになると思います。例えば、私が携わっている「女子サッカー」についても国によって様々な見方があります。アメリカではサッカーは女性と子供のための安全なスポーツとして認識されていたり、イスラム圏ではスカーフを着用した女性にサッカーを解放するべきかどうか議論になっていたりと、捉えられ方や抱えている問題は千差万別です。今後ビジネスのみならず様々な分野で活躍していくには、コ

ミュニケーション力、しいては語学力（英語力）が重要になる事は周知の事実です。岐阜高校の英語教育のレベルはかなり高いと思いますので、今のうちにしっかり学んで欲しいと思います。



東明 裕

●とうめい ゆたか

法政大学・Purdue University
MBAを卒業後、GE Capital勤務。
09年インドに会社を設立、
妹の会社（香港）と共にアジアでの
ビジネスを展開。昭和63年卒。



東明有美

●とうめい ゆみ

プリマハムFCクノ一引退後、
電通に入社。現在は順天堂大学
大学院で博士号取得を目指す。
日本サッカー協会国際委員、ア
ジアサッカー連盟社会貢献委員。
平成3年卒。

特集①

未来への
発信

食と日本文化 【白扇酒造】

—どんな学生時代を過ごされましたか。

岐高へは半分は川辺町から高山線で通い、半分は学校の近くで下宿していました。下宿の時は弁当がないので、よく「ミミーのパン」を買いましたよ。あの頃はどこでも同じだったでしょうが学内が閉鎖的な雰囲気、東京の大学に進んだら、開放的なのにびっくりしました。

大学2年の時に親に無断で横浜から船に乗ってヨーロッパに行き、4ヶ月ほどウロウロしていました。いろんな国に行って放浪っぽい生活をしていたのですが、だんだん頭が変になってきて日常生活に戻れなくなっていました、気がついたら4ヶ月経っていたという感じ。それで戻ってきたのですが、放浪はクセになるんですね。それから中南米などいろんな所へ出かけました。還暦を過ぎましたが、きっと今でもできると思っています。

—日本の伝統食文化にお詳しいそうですが。

食べものの研究は結構おもしろいんですよ。食の世界にはおもしろいことがいっぱい。日本の食ですごいのは、漬け物とはんぺんやカマボコなどだと思います。種類の多さもすごいし、文化もすごい。それぞれ地域で素材も味も違う。それぞれが独自の文化を持っているんです。

最近、発酵食品が注目を浴びていますが、「麴（こうじ）カビ」というのは日本にしかないカビなんです。日本人はそのカビで酒もみりんも醤油も味噌もつくってきました。日本ではかできないはずの伝統食品なんです。最近その伝統食品が安心からといって海外でつくられていく。たとえば、みりんの9割以上が海外産だといわれています。みりんは焼酎ともち米でつくりますが、外国の米ではだめなんです。日本の米と麴カビでつくるものを海外で、

—というのは日本はどういう国かと思

いますね。麴菌は日本の宝。海外に持ち出されて特許を申請されたり、洗剤などを作る動きも出てきていますが、本来国内できちんと守られなければいけないもの。特許を申請されても、日本は対抗できない。米の需要が低下し、日本酒の消費量もここ30年落ち続けていますが、米の文化の衰退は日本の文化の衰退だと思っています。

それでも戦後、アメリカの麦文化が押し寄せてきた時にも、古代から積み重なってきた米の文化は一掃されなかった。今も米の文化の積み重ねが日常生活の中に残っている。そういう意味では日本はおもしろい国だとも思います。例えば食事の時、はしを使いますよね。はしは手前に横にして置く。フォークやナイフは縦に置きますよね。はしを横にして置くのは、日本だけ。それは、日本のはしは、もともと「端っこ」を意



加藤孝明

●かとう たかあき
4代目蔵元として江戸時代から続く酒づくりの伝統を守る傍ら、発酵学の追求や身近な芸術文化の紹介にも熱心。昭和44年卒。



味し、境界を意味しているからだそうです。食べる側と食べられる側の境界線をはしで引いているのです。

お茶の世界では扇子がその役割を果たすそうです。不明瞭な部分を無くし、きちんと線を引く。そんな潔さが日本の食文化にはありますよね。

それに酒を入れる桶など、日本には米の文化が育んだ日常のもので美しいものが結構たくさんあると思います。お酒や田楽、おでんなどの歴史も調べていますが、おもしろい話や疑問がいっぱい出てきて、興味が尽きません。

「飲むみりんやみりんを使ったレシビも発表されていますね。」

うちは、川辺町で古くから「びりんや」として真面目にみりんや清酒を造り続けてきました。最近は息子が地元元の休耕地を活用して芋を育て、芋焼酎を造るようになりました。みりんや日本酒、焼酎などの基本は麴手造りで育てた元気な麴を用いて醸造すれば、おいしいものができると信じています。焼酎ともち米、麴のみで造ったうちのみりんをヨーロッパに持っていくと、日本酒より評価が高いんですよ。甘くておいしいと言われ、飲んでしまいます。彼らは料理に使うという意識はないんです。1年、2年、3年と熟成させる

につれて、いろんな味や香りを表現してくれるのです。飲み比べてもらうとよく分かります。飲みますが、10年熟成したものはまるで薬酒か紹興酒のような味わいになります。

「これからやろうと思われていることはありますか。」

無理をしないで、できることをできるだけ、やっていこうと思っています。日本中で酒造メーカーがどんどん減ってきています。うちも何が何でも生き残ろうとは思っていません。自然の流れにまかせ、世の中が必要とするものは生き残っていくはずですので。ただ、日本の消費が軽薄になってきて、においのあるものがどんどん消されていってしまうのが惜しい。発酵食品もそうですが、生活にはおいがあつて当然なんです。清潔の観念も行き過ぎた感がありますね。

それに、安いものをたくさん作ってたくさん売るといふ資本主義がもう限界にきていて、これからはお金に価値を置く時代ではなくなっていくと思います。自給自足の生活に戻るのは難しいですが、私は日本の農業を変えていく1つの方法は家庭菜園ではないかと思うんです。休耕地をみんなで借りて、共同で作物を育て、みんなで収穫を分け合つて食べ

たらどうかと。大きな土地を耕すのは大変ですが、少しならできる。私も少し畑をやっています。学校でも花ではなくて、野菜を育てたらどううかと地元の小中学校などに提案しています。もう少し国内で国内のものを消費していく力をつけなくてはいけないのではと考えています。



※会報部有志で1月半ば過ぎ、加茂郡川辺町の白扇酒造を訪ねて加藤社長のお話を聞き、新酒や年代ものみりんの試飲などをさせていただきました。

スポーツの力で岐阜を元気に FC岐阜が地域のためにできること

2012年3月4日、今年もJリーグが開幕した。FC岐阜のホームスタジアム長良川競技場はいくくの雨模様だった。しかし、冷たい雨にも関わらず、バックスタンドには、

くせがあった。経験豊富な服部選手
の加入で、苦しい時間帯も慌てず落
ち着いた試合運びができるのでは、
と期待されている。

チームカラーのグリーンのユニフォームを着た数百人のFC岐阜サポーターが陣取り、熱い声援を送っていた。その中には、私の岐高の1年後輩で、山中製菓社長の中西謙司も含まれていた。

試合は前半9分、岐阜はあっさり
先制点を許し、いやな流れになった
が、20分に服部の高い弾道のコーナ
ーキックをイケメン・フォワードの
佐藤洗一が決め同点。そして前半終
了間際、敵陣ペナルティ・エリアの
混戦の中で鳥取のフェールを誘いPK
Kを得る。小柄で童顔の染谷が決
めて逆転。後半も開始早々から責め
続け、3連続のコーナーキックのチャ
ンスを決め切れずにいるうちに、後
半開始16分に鳥取のカウンター攻撃
を受け、センターリングが不運にも岐
阜のデیفエンダーに当たってオウ
ンゴール（自殺点）を献上してしま
った。去年までの岐阜なら、このま
まするずる失点を重ねていたところ
だが、今日はなんとか持ちこたえ、
結局引き分けでこの試合が終了した。

試合開始前の選手紹介のアナウンスでひととき大きな声援を受けたのは、対戦相手のガイナレ鳥取から今シーズン移籍してきた38歳のベテラン服部年宏選手だった。服部と言え、日本が唯一ブラジル代表に勝ったアトランタ・オリンピックの「マイアミの奇跡」はじめ、フランス・日韓と2度のワールドカップを経験している名プレイヤーだ。昨シーズンのFC岐阜には、一度得点を許すとバタバタと失点を重ねる悪い

私は、この試合を会社の後輩とともにメインスタンドの屋根の下で観戦した。試合終了後、関係者エリアへ降りてゆくと、びっしり濡れた中西がやってきた。「負けなんだだけよかったわ。服部おらんかったら去年といっしょやで」。中西は、F

C岐阜の今西社長に話しかけた。今西社長は、厳しい表情をしたままだった。今日の試合、一番勝ちたかったのは今西社長だったと思う。私は、ちょうど1年前、FC岐阜の今西社長に会った時のことを思い出した。

私は現在、広告会社の電通でスポーツビジネスに携わっている。海外のサッカーに関わる機会が多く、Jリーグとはあまり接点がなかったのだが、昨年4月、今は電通を引退した大先輩から「FC岐阜の今西社長に会いに行こう。君もサッカーの仕事をしているなら絶対に会っておくべき人だから」と誘われた。長良川スポーツプラザの会議室で、今西さんから「ぜひ岐阜のために力を貸してください」と言われたのが最初の出会いだった。

今西さんは、サッカー界では有名な人物だ。1997年、ワールドカップのアジア地区予選の途中で、加



中西謙司氏(昭和55年卒)と筆者(右)、長良川競技場ラウンジにて



茂監督を解任し岡田監督を後任に据えた「事件」があった。その当事者だったのが当時日本サッカー協会にいた今西さんだ。しかし、その時の英断によって、日本は初めて98年のワールドカップ・フランス大会（実は、私のスポーツビジネスのキャリア

アもこの大会から始まった）に出場でき、思いがけず日本代表監督に「なってしまった」岡田さんの2010年アフリカ大会での活躍があったと言っても過言ではない。日本のサッカー界を知り尽くした今西さんが、現在FC岐阜の社長を務めている

るのは、岐阜にとって僥倖だと思う。

今西社長との最初の会議で、私が中西謙司と同窓であることを伝えると、今西さんの顔がほころんだ。「そうですか、中西さんには本当にお世話になってます」。中西は、経済的に厳しいFC岐阜をサポートするために、「個人持株会」を立ち上げ、その理事長として無償で会の運営を担っている。FC岐阜の株主には、県や県内の全市町村も名を連ねている（県や市は、FC岐阜へ出向者を派遣し人材面でも全面的に協力している）が、今や「個人持株会」が筆頭株主であり、「協力はするが経営は任せる（個人株主は、議決権は持たない）」という方針でクラブを支えている。

中西と私は不思議な縁で繋がっている。既に紹介したように、彼は岐阜の1年後輩であるが、実は中学（岐大附属中）から大学（東大）までいっしょ、彼も電通に入社し、おまけに私と同じ部署に配属になった。中西は電通で稼ぎ頭として活躍していたが、94年、家業の山中製菓を継ぐために岐阜に帰った。それ以来音信はほとんど無くなっていたが、JリーグFC岐阜を通して再会を果たした。

1993年に10クラブでスタート

したJリーグは、20周年を迎えた今年40クラブに増え、今や日本を代表する地域交流イベントに成長した。大都市中心型のプロ野球とは対照的だ。今シーズンのFC岐阜の開幕戦

にも、はるばる鳥取県から100人単位でサポーターがやってきた。Jリーグの試合でもなければ、鳥取からまとまった人たちが岐阜を訪れることも無かっただろう。全国各地から地元チームの応援にやってくるサポーターに岐阜の良さを伝えることができれば、岐阜の観光産業にとって大きな振興策になる。

また、Jリーグはスポーツによる地域貢献を標榜しているが、その具体的な活動の一つとして、学校の芝生化を推進している。欧米に行くと気付くのは、どこも校庭が青々とした芝生におおわれていることだ。ところが日本では学校の芝生化が進んでおらず、芝生の学校は全体の5%程度にすぎない。校庭が芝生であれば、子供たちは怪我を恐れず、思い切って遊ぶことができる。思い出し切れば、岐阜も校庭の砂ほこりが教室に入り込み、いつも土っぽかった。もし校庭が芝生になれば、そんな悩みも解消することだろう。

FC岐阜は4年前にJリーグに昇



長良川競技場で応援するFC岐阜のサポーター

格したばかりで、まだ地域に根付いているとは言えない状況だ。観客動員数もリーグの平均を大幅に下回り、クラブ経営も安泰ではない。しかし、こういう熱いサポーターがいることに大きな希望を感じた。スポーツには、地域の人たちの人生に楽しみを提供し、家族や友達との繋がりを深める力がある。街の空洞化を食い止める切り札になる。私は、これまで電通で培ったスポーツビジネスの経験を生かし、FC岐阜がもっと魅力

的なクラブになり、より多くの県民に愛されるようサポートしていきたい。それが、故郷岐阜に対する恩返しであり、岐阜の未来を担う子どもたちへのプレゼントであると考えている。

最後に一言。岐高同窓生の皆さんも、ぜひ家族や友達と長良川スタジアムに足を運び、名物屋台村のグルメを楽しんでみてください。「サッカー観戦って意外と楽しいかも」そう感じていただけたなら、それはFC岐阜にとって何よりの励みになります。



小林住彦

●こばやし すみひこ

株式会社電通 スポーツ局開発事業部長。東京大学工学部卒業。米国ビッグバード大学経営大学院修士課程修了(MBA)。電通にてFIFA、UEFAなど、海外のサッカーに長く関わった後、現在は、メディア環境の変化に対応した新しいスポーツ観戦サービスの開発に取り組んでいる。昭和54年卒。

さくら組【草の根から宇宙まで】

「未来への発信」。討議を重ねテーマを絞り込んだうえ、困難覚悟で巻頭の特集を企画した。寄稿の対象は、今を「旬」と活躍する超多忙な同窓生たち。取材は無理かも…、もしかしたら原稿が届かないかもしれない…。スタッフはぎりぎりまでネバった。結果はご覧の通り我々の期待を上回るものになったように思う。

宅配寿司『銀のさら』で業界トップを走る江見さん。独特の人間観と、豊富な経験に裏打ちされた合理的経営手法で組織、フランチャイズをまとめる。「はやぶさ」で有名なJAXAの中川さんは、宇宙望遠鏡を搭載した人工衛星のプロジェクトで、宇宙の成り立ちと生命誕生という壮大なテーマに取り組み。分子脳科学・医学の分野で、不治の病と思われていた筋ジストロフィの治療に道筋をつけた戸田さんは、脳疾患研究の第一人者だ。ここまでの三方、いずれも昭和54年卒という事実に驚く。

長い雌伏の時代を経て、昨年大輪の花を咲かせた『なでしこJapan』。平成3年卒の東明有美さんは、女子サッカーの草分けとしてアトランタ五輪

にも出場した逸材。その兄・裕さんは自身の会社を軸にインドでのビジネスモデルを立ち上げた努力家だ。香港を拠点にサッカー貢献活動を続ける有美さん共々、アジアを舞台に切磋琢磨する。昭和44年卒の加藤さんは、地元・川辺町で長年酒づくりの伝統を守り、生命の基本たる地産地消の食文化にこだわり発信を続ける。広告界の雄・電通には、今回運営担当の三世代組を含む16名の同窓生が在籍する。54年卒の小林さんは、電通スポーツビジネスの中枢を担うエグゼクティブだ。J2「FC岐阜」を支援し続ける後輩の元同僚とこの春に再会、地域貢献活動で頑張る地元チームに対し、故郷を想う熱い気持ちを寄せていただいた。

皆さんジャンルやフィールドこそ違うものの、『さくら組』の知性と誇りを体現する輝く同窓生たちだ。あの大地震災と原発事故により重い十字架を背負うことになったこの国。先達として重大な責任を感じながらも未来への発信を絶やすことなく、あとに続く後輩達の英知に希望をつないでいきたい。

(会報部・S)



恩

恩師より Sakura 達へ

若き日のわれらが 心の拠りどころとした「先生」。いま明かされる、恩師の実物大の素顔は？
一方、久しく故人となられてなお、多くの同窓生の心に生き続ける師…
先生がた 本当にありがとうございました。

昨年十月、岐阜市民会館で開催された澤地久枝さんの講演会場で、偶然、同窓会の幹事学年に当たる昭和四十四年卒の、稲垣豊子（旧姓矢野）さんに会いました。その折、来年の会報に是非寄稿してほしいという依頼を受けました。私はこの三年ほど、文章というものを全く書いたことがない、否、生来の悪い頭が、年のせいで惚けて書けない状態ですので断ろうとしましたが、断りきれず、という訳で、以下後期高齢者の戯言を記すのをお許し願いたいと思います。

私が岐阜高校にお世話になりましたのは、岐阜

このごろ思うこと

大場 民夫

国体が開催された1965年（昭和四十年）から八年間です。聖火ランナーをつとめられた古田肇知事（当時岐阜高三年生）の颯爽とした雄姿を懐かしく思い起こします。

ところで、同窓会報などには、大体は在職中の特に印象に残った想い出話などを記すのが多いようですが、何分、四十年以上前のことです。忘却の彼方に消え去ったことが余りにも多く、自信をもって語れることは少ないのです。したがって、「このごろ思うこと、感じたこと」をいささか述べることにしました。

昨年は東日本大震災の大災害、未曾有の福島原発事故による放射能汚染が日本中を震撼させた年でした。多数の人命が失われ、方丈記の冒頭の如く、人の世の無常を痛感させられる年になりました。衝撃は甚大で、未だに立ち直れない多くの被災者がいます。

2011年、三月十一日を境に、人生観の変わった人も多いことでしょう。私もその一人です。自身の甘えた生き様を深く反省させられました。それ以前は、年ごとに病院通いの回数が増えていく体調を苦にする日々でした。眼はかすみ、難聴

は進み、時々足腰も痛みます。さらに、一昨年六月には脳梗塞が見つかりました。長年、人には言えない持病も抱えています。現在、「死に至る病」という切迫した状況ではないのですが、健康への不安に脅える日々でした。

毎年、桜の季節になると、この花も今春が見納めになるのではなからうか、来春ははたして・・・などと、その想念は暗い谷底へと向かうばかりでした。

しかし、人は八十路も過ぎれば、どこかに故障を生ずるのは当たり前で、全然異常のない方が寧ろ

特異なのではと考えついた時、豁然として展望は開けます。そんな折、あの大震災の情報が、私の生き様に反省を促す警鐘を鳴らす契機となりました。今日までいかに贅沢な悩みを抱いて暮らしていたことか、犠牲者の無念、被災者の苦勞に思いを馳せ、「生かされている者」の幸せと申し訳ない気持ちをしみじみと感じたのです。

震災から十ヶ月余りが経過した今も、復興は遅々として捗りません。老いた私にできることは、せいぜい僅かな募金に協力することと、被災地の一日も早い復興を祈り、被害者の悲しみ、痛みに心を寄せながら、皆さんが一刻も速やかに元の生活に戻れるよう、念ずることだけなのです。

久しく忘れ去っていた、宮沢賢治の有名なことば「世界がぜんたい幸福にならないうちは、個人の幸福はあり得ない」（『農民芸術概論綱要』）を思い出し、肝に銘じています。



●大場先生（在任期間 昭和40～47年度）

大場先生は、受験校の中で安心して何でも話すことのできた貴重な先生のお一人です。数学の授業では小さくなっていた私が、大きな声で発表していた現代国語の時間。「解釈」に無理があった発表をうんうんと笑顔で見守ってくださいました先生に今も感謝です。（会報部E）

先日、ふと思い立ち一人で岐阜高校を訪れました。正確に言うとは岐阜高校を近くから眺め、暫し逍遙しました。当時の校舎の片鱗さえ残さない美しくモダンな建物です。この校舎に往時を重ね偲ぶには術無しの感しきり。

昭和51年から2年間、新任教員として岐阜高校に勤務させていただきました。昨年3月に退職を迎えましたから遡ること36星霜になります。時の移ろいの怖ろしいほどの速さを感じます。わずか2年間ですから、私にとつては短時間であったわけです。しかし、経過時間としては随分心理的に長く感じます。今も蘇る多くの忘れえぬ思い出に満ちている時間でした。

生き方を決めてくれた2年間に感謝

安江 雅和

室もあって、夜や日曜日に学ぶ人のために机の中などの残置物に配慮することもあったと思います。利他に根ざしてこそ学びは深く鋭くなる、そんな気がしていました。

この社会はさまざまな人達から成るわけですから、あの時代の岐阜高校は社会構成に少しは近かったともいえます。教員も生徒も人間的にはまらない魅力ある者が雲集していたような気がします。

教える者と教えられる者の年齢落差が少ないということは心弾む楽しさに繋がりました。発言しやすかったのでしょうか、未熟でも質問や批評で補ってくれることで授業内容が深まっていた

新任であったということがそのように振り返らせる大きな要素だと思います。また、岐阜高校の現在と当時を比較すると、外観のみならず全く別の学舎であったといっても過言ではないでしょう。定時制があり通信制があり、学ぶ意欲があっても経済的な条件等が許さない多くの生徒が学ぶ場でもありました。そうした環境は

私自身の高校時代、全県から岐阜地区に生徒が来ていた頃に近似していました。全日制・通信制・定時制、校名こそ岐阜高校・華陽高校と、別称していましたが総じてこの空間が学びの磁石であったことが魅力でした。「国家のために明け暮れ学ぶ」には懸隔があるものの共用教

く楽しさは何にも替え難い喜びでした。あの時代に作成した教材はすっかり褪色していますが、生前断捨離を免れ、今でも手元にあります。

軟式テニス部の副顧問として、生徒と一緒にその場所にいただけですが忘れられません。文化祭の準備で使い走りをしたこともありました。ギターを抱えて何か歌った記憶もあります。ひとつひとつが新鮮で輝く記憶として刻印されています。

岐阜高校で教師生活を開始した私は、その後、東濃地区（恵那北高校）、西濃地区（大垣西高校）、可茂地区（加茂高校）、再び岐阜地区（岐阜北高校）、美濃地区（中濃特別支援学

校）、飛騨地区（飛騨高山高校定時制）、可茂地区（可児高校）、そして再度岐阜地区（加納高校）と県下全圏域・多校種に互りました。管理職としての8年間は学校というところに何らかの理由で来るのが困難な生徒の支援が自分の使命と決めて関わりました。語れば尽きません。

退職後は、再び一教員として私学に勤めています。違う道もありました。蛮勇だとか何だとか言われながら、16年ぶりの担任をしています。公立高校入試に二度失敗したことが心的外傷になって苦しむ生徒もいます。心が痛みます。老骨に鞭打ち、踏み台になろうと決意しています。希望を掲げて進む限り、人は精神の若さを失わない。この職は、生き方に根を張っているだけに可能な限り歩み続けなければ、と決意する昨今です。



●安江先生（在任期間 昭和51～52年度）

在任期間は短かったのですが、影響力は多かったです。文化祭、合併教室で行われていた「サロン」で、先生の周りにできた人だかりが如実に表れています。岐阜高校では珍しかった「若い」先生ゆえかもしれませんが、それだけでは無かったと思います。（会報部K）

岐阜高校に国語科教員として在職したのは昭和52年4月から昭和59年3月までの7年間でした。

実はその前に昭和40年から3年間、生徒として通学して通ったので、合計10年間にわたって大縄場の地に通ったことになりません。この10年間という年数は今後増えることはなく、一方年齢だけでもどんどん増えていきますが、やはり何分の一かを占める年数は少なくないというのが実感です。

生徒としての立場は、ともかくも入試を受けての入学ですから、そこに何がしかの意志や願望を認めることができますが、教員として母校に勤めることになったのは、自らの意志などほとんど入る余地がないわけで、偶然といってもよいくらい

一本の道、俳句のみち

です。ですから、生徒や同僚の方々とは、歯車が一つ変わっていたら、まず出会うことはなかったでしょう。その間のことはいろいろ思い出すこともありますが、前任校の斐太高校が新任校であり、そこではまったくの坊ちゃん教師でしたから岐阜の時代も似たような感じで勤めていたでしょう。

その後、二つの学校に勤め、思うところあって48歳で退職しました。それなりに一生懸命勤めてきましたので、職から身を退くのは、大きな転機になると感じられました。「あしたから、食っていけるのか」と、多くの人が心配の言葉を掛けてくれました。

それから13年が経過しました。現在はほとんど

毎日、「大野鶴士」の名で俳句や連句の創作や会の世話、講演、講座をして過ごしています。また、昔から鉄道や城郭に興味がありましたので、鉄道や城と文学作品との関わりというテーマでの講座もいくつか担当しています。

ブームは去ったとは言え、日本人の俳句好きは言うまでもありませんし、かつては「ネクラ」の趣味と言われた鉄道の世界でも、「鉄子」や「ママ鉄」と呼ばれる人たちが出現したり、城の分野でも歴史ブーム、城ブームを背景として「歴史女」、「歴史ドル」などの存在が目につきます。教室は男性よりも女性の方が多く、それだけ生き生きと人生を楽しんでいるのでしょうか。いずれにせよ、

大野 国土

おたがい興味のある好きな分野の集まりであり、交わりですから、教室の雰囲気は格別で、そうした空気の中に身を置いて楽しくないはずはありません。中には与えられた講座から自主講座が生まれて城めぐりに同行したり、みんなで城下町の和菓子を食べながら、その城の勉強をしたりと、遊びながら学びの原点に立ち会っているような気がしてなりません。講師冥利に尽きます。

その一方、実は昨年まで母親の介護をしてきました。話には聞いていましたが、いざ自分がその立場になると大変です。しかしそのことを通して、医療と福祉の現実の一端に触れることができました。人々が生きていく上で出合う喜びや哀しみに

ついて理解する心の襞が、少しかだけ深くなったような気がします。

ふり返ってみると、こんなに深く俳句や連句に関わり合うようになるうとは、思ってもみませんでした。しかし、岐高1年生のときの高浜虚子、水原秋桜子、加藤楸邨といった俳人の句についての授業や、3年生のときの芭蕉の『猿蓑』の連句についての授業は、今でも鮮明に覚えています。加えて私自身が俳句の授業をしたり、生徒と連句を作ったりしたことを思うといわゆる教職にあるかないかというだけの違いで、俳句や連句という一本の道が貫いて通っており、そこをとぼとぼと歩き続けている自分の姿を見いだすのです。



●大野先生（在任期間 昭和52～58年度）

風を感じたいからと、当時、新岐阜駅（名鉄）から岐阜まで黒靴をさげ、歩いて通勤していました。感性を追求されて教師の枠を飛び出され、現在は「俳人」として活躍です。岐阜新聞でも有名な大野鶴士（こくし）さんが岐阜高校で教鞭をとっていらつしたことを知らない人もいるのではないのでしょうか。何年たっても教え子の顔と名前を覚えていらつしやる記憶力には脱帽です。（会報部K）

昭和から平成へ

渡辺 正昭

38歳から49歳までの十一年間、歴史と伝統ある岐阜高校で過ごせたのは私にとって実に幸せなことであった。赴任したのは昭和五十三年、奇しくも今回の同窓会の中心幹事が三年生の時のことである。この年、春の選抜で甲子園へ行った。四月一日、雨中、相手は三重の相可高校、七回に逆転勝利、校歌が全国に流れたことは忘れられない。PL学園を招いての親善試合で投の桑田、打の清原。東邦の坂本や大阪桐蔭の今のピッチングなどを見たのもこの頃であった。

さて、岐阜高校を象徴する行事に林間学舎があった。一年生は全員で三泊四日。オリエンテーリングやキャンプファイアー、最大のもは

登山であった。朝五時出発で新穂高から鍋平まではロープウェイ、そこから西穂山荘まで約一時間、お花畑さらには年によっては独標まで登る。眼下に上高地が見える。雲海、穂高連峰、遠くには槍ヶ岳の偉容が飛び込んで来る。二年生は希望者、登山は焼岳。あの三角屋根の林間学舎、今でもあるのだろうか、もう一度訪ねてあのあたりの見慣れた景色に接したいものである。

部活動は新聞部。多くの部員がブラスバンドもこなし、野球部の応援に行ったりもした。文化祭では弁論大会を開くなど意欲的であった。

担任として思い出すことは、初めて経験した

理系三年生担任。入試情報など、生徒の方がよく理解していてこちらが教えられるほどであったこと。また、ある年の文系担任では英文科希望の多さに驚いたことなどである。岐阜高校での最後の担任は文系三年生であった。今年と同窓会幹事の一端を担っている学年である。四月早々、事務室に用事があるとのこと。何事かと思つて出向いたら、明日、学年主任としての初仕事として京都北野天満宮へ合格祈願に行くようにと、受け取ったものは京都市のチケットであった。縁起を担いで調査書用に吉相印をも新調した。この年の忘れられないことは、元号が平成に変わったことだ。大学進学のために冬

休みに作って正月早々にコピーしておいた調査書。年末に作っていたため発行日が昭和になっていた。平成に書き直さねばいけないということとで、コピーしたものを全て破棄し作り直した記憶がある。また、この時、これから、いつも使う字となるからと平成の「成」の字、書き順をしっかりと覚えるようにと生徒に話したということ、当時担任したOGから最近聞いて思い出した。

話題豊富で音楽や家電が好きだった英語の太田先生、いつも大声で元気いっぱいだった数学の金武先生など名物先生もいたあの頃、多くの良き先生方との出会いの中、良き生徒達に囲ま

れて四十歳代全てをこの岐阜高校で過ごせたことは無上の喜びである。

私はその後大垣北高、岐山高に勤め、公立高校退職後は済美高校に十一年お世話になった。済美高校では担任も持った。岐阜高校で担任を持った平成元年以来の出来事である。修学旅行では明るく元気な女子生徒とともに平戸まで行った。初めての就職試験対策指導もした。

昨年ようやく、四十九年にわたる教員生活に終止符を打ちフリーの身となった。現在は小学校時代の仲間約四十名で結成し、十周年記念コンサートも開いた器楽クラブの練習。よき師に巡り会え、再開した謡曲・仕舞の稽古。その他自然相手のバードウォッチング、ウォーキング、パソコン、カメラなどで日々を過ごしている。

最後になったが白亜の新校舎に生まれ変わった岐阜高校のますますの発展を祈念する。



●渡辺先生（在任期間 昭和53〜63年度）

一見、厳しそうで、また見ようによっては眠そう（国語の授業だったせいかも）にも見える先生でしたが、話し始めるとにこやかで、生徒のことをよく理解いたしていました。そんな先生は、女子生徒にも人気があり、男子クラスから横目で見ているものでした。（会報部H）

定年退職後、市内の私学で講師をしている。入
学式や保護者会で出くわしたり、授業参観に来て、
後ろでニヤニヤしているかつての岐高生がいたり、
縁の切れない人もいる。かくて、今年も大学進学
を目指す18歳と入試問題をはさんで向き合ってい
る。

●共通一次試験

今年と同窓会学年当番・54年卒の諸君は、共通
一次（センター試験）元年の受験生である。私は

『ピアノ』と入試

中谷 達美

この学年を一年次から三年間持ち上がった。学校
群制度二年目の入学生でもある。高校、大学とも
に入試制度の変わり目に遭遇した巡り合わせの悪
い学年であるという思いから、第一回共通一次試
験にまつわる出来事は記憶に残っている。

共通一次試験の対象科目は、カリキュラムとの
関係で一年次には明らかに不透明だったが、選択科
目間の平均差をどうするかについては不明なまま、
二年次の夏には、試験日が三年次の12月実施と一
旦は決定した。しかし、高校からの反対が多く、
翌年の1月に変更されるなど不安定なことが多か

った。他の多くの学校が学校行事等を見直すなど
一次対策に神経を使ったが、岐阜高校の対応は落
ち着いたもので、従来の試験である二次試験を念
頭に準備を進めていけばよいという方針はぶれて
いなかった。

かくして第一回共通一次試験は、32万人が受験
した。学校で集めた個人データを予備校ネットが
全国規模で集計し、大学ごとに合格ラインが引か
れる。大手3社がそれぞれ取りに来た。A社は集
計結果を提供するのであるから、有料であるとい
う。そういうことなら、岐阜はデータを出さない

ということにした。岐阜が出さなければ、集計の
意味がないと言うので無料になった。

結果は予想以上に易しかった。特に数学は満点
が続出で、文系は有利に働いた。二次試験に論文
を課した医学部では、入学後に理系科目のできが
悪く、その後の課題になった。

●芥川龍之介『ピアノ』

名古屋大学の二次試験で、国語を終えて試験会
場を出た岐高生は、顔を合わせるなり誰もが「バ

ンザイ」と飛び跳ねたという。小説問題が当たっ
たのである。芥川龍之介の小作品『ピアノ』を校
内実力テストに出題したが、休暇中の課題にした
問題集にも同じ『ピアノ』が取り上げられていた。
前年の広島大学で出題されたものであった。二度
演習した生徒は、解説を読み返し、関東大震災後
の廃墟の中で、かすかに打ったピアノの音が強
く印象に残っていたと言う。それが三度問題にな
って出たのである。設問も十分理解できている内
容であったという。この年の名古屋大学合格者は
例年より多かった。

あれから33年を経た今年も55万人がセンター試
験を受験した。入試の要領も利用の仕方も大きく
変わってきたが、今向き合っている18歳の眼も、
あの頃の諸君の一途な眼と少しも変わっていない。
純に澄みきった「高校生の眼」なのである。



●中谷先生（在任期間 昭和50～58年度）

明るく勢いのある先生の担任のクラスはどの学年でも結束
力が強く、学級自体が先生の人柄そのままでした。口癖の
「バカモン」を懐かしく思い出します。定期試験のあとの珍
解答を紹介してくださるとき先生の先生は本当に楽しそつでした。
私たちも楽しかったです。（会報部K）

女子の体育の先生と言えば、誰もが一度はお世話になったあの筑間先生。大正15年生まれで、御年八十五歳になられました。今もお元氣な筑間先生に、お話を伺ってきました。
(平成23年11月4日ご自宅にて)

岐高時代の思い出をお聞かせ下さい。

「転任先は岐阜高校です」と言われた時は、「天下の岐阜高校だ。大丈夫かな?」と心配でしたが、取り越し苦労でした。皆素直で、何事も一生懸命取り組む真面目な子ばかりでした。やる気のない子や覇気のない子を見ると、

さくら組、ピシッとしなさい

筑間 房子

「目腐れ!」とか、「腐れ目!」と言ってよく叱っていましたが、今になるとちよつと怒りすぎたかな?と想っています。(笑)

退職するまでの十九年間を岐高で過ごし、沢山の思い出がありますが、一番嬉しかったのは、昭和53年の野球部の選抜出場です。退職してからもよく岐高の応援に行きましたよ。

今でも、岐高時代の同僚の先生や教え子との交流があり、ご縁を大切にしています。

現在の生活についてお聞かせ下さい。

岐阜市内で一人暮らしをしていますが、近所

の方や近くに住む甥や姪のお陰で、平穩に過ごしております。病氣も無く元氣ですが、最近足が悪くて長く歩けませんので、専らケツタ(自転車)を足代わりに活動しています。私の楽しみや生きがいは、週に一度のグラウンドゴルフと習字です。

グラウンドゴルフは、誰かに迷惑をかける事なく自分のペースで出来るスポーツなので、好きです。近所の友達とワイワイやりながら、楽しんでいきます。

習字はもう二十年以上続けていて、段も一番上まで取りましたが、これで満足:という事はありません。「今日はおもつと上手に書こう」と

いう目標を持って、日々練習に励んでいます。

健康の秘訣を教えてください。

・食事は三回きちんと摂る

私はとにかくよく食べます。朝食を摂り、昼近くにモーニングを食べても、お腹がすいてまた昼ご飯を食べるくらいですよ。

・家に閉じ籠らない

一日一回は外に出るようにしています。近所を散歩したり、買い物に行ったり:と。運動の為にというだけでなく、外に出て人と触れ合う事が大切だと思っています。

・明るく生きる
くよくよ悩まず、物事を前向きに捉えて、いつも明るく過ごせるように心掛けています。

インタビューを終えて:

岐高時代はジャージ姿のラフな感じの筑間先生でしたが、今はきちんとお化粧をして、服装もとてもお洒落!会話も軽妙で、時にはユーモアも織り交ぜて:。お年寄りにありがちな「愚痴っぱさ」は全くありません。

「誰にも迷惑を掛けないように、自分の事は自分でする」先生との会話の中に何度も出てきた言葉です。ずっと一人で生きて来た強さと自信、これからも一人で生きていく覚悟が見えるような気がしました。穏やかなお顔に凛とした老いの美しさを感じ、いつまでもお健やかにと願わずにはられません。(聞き手/川尻智子)



●筑間先生(在任期間 昭和43~62年度)

当時の岐阜高校の女子で、先生のお世話になつていない人はいません。言葉は体育の先生らしく厳しいときもありましたが、温かく、シャイで保健の授業中に廊下を男子が通ると、「やらしいねー」と言つて声をひそめていらつしゃつたのを懐かしく思い出します。体育ができないと「うちの鳥でもでるわ」と叱られました。(会報部K)

古いアルバムのページをめくると、1年10組、2年5組、3年6組のセピア色の懐かしいクラス写真が現れ万感胸に迫る思いで一杯になった。

2年生の時も3年生の時も、私の担任は英語担当のあの高貴で麗しき鮫島登美子先生であった。いつも流暢な英語を話され、私達とアメリカ人の交換留学生との交流会の際には、「あなた方は英語でどんな事をお話ししてもよろしいが、ベトナム戦争の事だけは口にしてはいけません」と固く釘を刺された事を記憶している。先生こそ国際情勢を鑑み相手を気遣うことのできる真の国際人だと、私達は確信していた。

恩師と共に国際社会に生きる

故鮫島登美子先生の思い出

昭和44年卒 河村 都以

けれども、その尊敬すべき私たちの鮫島先生は今から数十年前に、その悲報が私に伝わる事も無く、静かに天国に旅立たれてしまった。先生に憧れ、先生と同じ英語教師の道を目指していた女生徒が私達のクラスには多かったと思う。そして、紛れも無く私もその一人であった。卒業前のお別れ会で、先生が原語で独唱してくださったあのヘンデル作曲アリア「オンブラ・マイ・フ」。その曲を聴く度に、その時の先生の美しい歌声を思い出し感無量である。

そして、私にはもうひとつ鮫島先生に関して忘れ難い出来事がある。それは大学入試を目前に控

えた三者懇談会の時の事である。昭和44年は唯一の東大入試中止の混迷の年であり、成績が奮わぬ現役志向の私にとっても一大ピンチであった。そこで、我が母曰く「家庭科学部のある、もつと易しい女子大学に志望校を変更して頂けませんか？」するとすかさず先生の迫真の猛反撃があり、私は救われた。「これからは何といても語学の時代です。語学力があれば、女性一人でも立派に食べて行けます。戦争になっても命が助かる事もあります」。

あれから四十年以上も経った昨今、あの時の鮫島先生の言葉が今までの私の人生の精神的な支え

になって来た気がする。外国語学部英米科を卒業し、岐阜高校で教育実習までさせて頂いたにもかかわらず、様々な理由から教職の道を歩む事はできなかった。けれども、青春時代に培った語学力は色々な仕事や生活の場面で役立ち、還暦をパスした今も、それを糧に外国に飛び立つ事も可能である。これからの国際時代を、人生八十年を目指して恩師の教えを胸に頑張って生きて行きたいと思う。



●鮫島先生（在任期間昭和39～46年度）
2年5組で本記執筆者の河村（旧姓・小野）さんと同級だった。鮫島先生の指導で男女3対3のグループができ、グループノートに各自がその時々を思いを綴る事になった。当時から早くも「おやじギャグ」に目覚めていた私は、毎回努めておもしろおかしく書くことに決め、「弥次喜多道中」をもじったコント的な文章を投稿したりしていた。先生はそんな私を温かく見守ってくれ、「あなたは意外なひらめきで、ひとを楽しませる才能があります」と赤ペンを入れてくださった。その後の人生、先生のその言葉を支えに生きてこれたという思いが今もある。（会報部S）



座

特集② 座談会・未来へ残したい岐阜

各世代でご活躍の同窓生の皆さんに、未来の街づくりへの展望や後輩に伝えたいメッセージを語り合っていました。「さくら組」として大縄場で過ごしたあの頃。大切な思い出とともに、ふるさと「岐阜」の素晴らしさを再確認することができました。

【座談会】

未来へ残したい岐阜

【採録日時】平成24年 1月27日（金）午後6時～

【集合場所】岐阜市大縄場 岐阜高等学校・校長室

【参加メンバー】玉井博祐さん、木方伸一郎さん、鹿野孝紀さん、杉山文康さん、広瀬修さん
【司会者】浅井彰子さん

「さくら組」の思い出

浅井 自己紹介をかねて岐阜高校時代の思い出をお話ください。

玉井 岐阜市内で和菓子店をさせてもらっています。高校時代は劣等生でできるだけ、高校時代のことは思い出さないようにしているのですが（笑）。岐阜に住んで商売をさせていただいていることもあって、岐阜高校同窓会の役員もさせていただいています。

木方 昭和46年卒業です。仕事は柳ヶ瀬で眼鏡屋をやっています。

杉山 昭和54年卒で、仕事は本巢市で建設業をやらせてもらっています。

玉井さんや木方さんら先輩方と一緒に同窓会の役員もさせていただいています。

広瀬 昭和45年生まれの平成元年卒業です。家は婦人服製造業ですが、岐阜市の市議員もさせてもらっていますので、今日は先輩方のお話を聞かせていただきたいと思って来ました。

鹿野 木方君と同級生で、平成23年4月から岐阜高校の校長をさせてもらっています。

玉井 劣等生でしたので、ひたすら隠れるようにして過ごしていましたので、今の高校生のように青春を謳歌した覚えはありません（笑）。中学3年の時に伊勢湾台風が来ましたし、私の高校時代は1年生も2年生の時も水がきました。みなさんにお見舞いをしていただければありがたいような気がします。しかも遠足のバスが正面衝突して、私は別のバス



未来へ残したい岐阜

の方に乗っていて実際は怪我しなかったのですが重症説が流れて同級生がお見舞いにくれてくれたこともあり、変な思い出ばかりですが、教えていただいた先生方はユニークで、印象深い方が多かったですね。今だに語り草になる先生が多いのではないのでしょうか。

浅井 おもしろい授業をなさった先生が多かったのではないのでしょうか。
玉井 そうですね。例えば、私の担任の先生は、巨人ファンで、巨人の話をしないと授業が始まりませんでした。私自身は部活動はやっていませんでしたが、私の年に野球部が甲子園に出場して応援に行ったのですが、1回戦の9回で逆転勝ちした時は、甲子園球場でもすごく喜んだ覚えがあります。クラスに野球部の人が多かった。

木方 僕らの時に林間学舎ができて、僕らが初めて使いました。2年生の時にアポロが月面に着陸して、3年生の時に大阪万博があつて、まさに高度成長の真っただ中でしたね。学生運動も盛んで東大の安田講堂が燃えて、いろんな出来事がありました。ものすごく世の中動きが早く、学生には無気力、無関心など三無主義がはやった時代で、このままだっていいのだろうかと思いましたね。「受

験生ブルース」もはりました。

鹿野 岐阜高校に入るまでは優等生で、入ったら劣等生で授業はものすごくつまらなかった記憶がありますね。でも放課後は楽しくて、僕は山の家の一期生ですが、あれもいい思い出ですね。前の校舎は昭和40年頃に建てられ、僕らが43年に入学した頃は、まだ新しくきれいでした。
玉井 私たちはその前ですから、ものすごく古い校舎に入ったんですよ(笑)。

鹿野 今でもそうですが、英語でものすごくしばられました。予習が大変で、前の晩にやった分の予習などは、授業ではあつという間に終わってしまい、あとはじつと我慢して下を向いていましたね(笑)。

杉山 高校に入る前年に野球部が県大会で優勝しまして、文武両道の学校として憧れて入学してきました。当時は群制がしかれ、受験地獄にならないようにという社会的風潮があつたんですが、それでも野球を続けながらの勉強には苦労しました。1年の夏に野球部の試合中に怪我をしてしまい、それがなかなか治らず高校時代はずっと休部状態でした。でも3年の春には同級生たちがあきらめていた甲子園に連れて行ってくれました。それが非常に思い出深いで

すね。その時のキャプテンが立教大学の現野球部監督の大塚です。

広瀬 林間学舎の話が出ましたが、私たちが1年で行った時は、なんと、いう古いところだと思いましたが、崖のふちに建っていて、みんな危ないんじゃないかと言っていました。実は杉山さんは野球部の先輩なんです

が、僕らの時は甲子園に行けなかった。勉強のことで話すことはありませんが、進学で東京に出た時、週刊誌に東大ランキングに岐阜のことが載っているのを見た大学の友人から「おまえの高校すごいな」と驚かされてしまいました。東京に出て初めて岐阜のすごさを知りました。すごい学校に居させてもらっただけでもすごいことだと思っています。しかも家業を継ぐために岐阜に戻ってきたら、岐阜には高校の先輩がたくさんいて、すごい肩書きの人ばかり。同じ高校出身ということで先輩方と話をさせてもらえるだけでも安心できるんです。

浅井 地元でも全国でも活躍している人が多いですよ。

鹿野 本場に多いですよ。歳とともに岐阜高校を卒業してよかったと思えるんです。いろんな分野で活躍しておられる人が多いので、何か困った時に相談すると助けてもらえるん



写真右) 広瀬修さん 平成1年卒。
岐阜市議会議員。岐阜市在住。
写真左) 鹿野孝紀さん 昭和46年卒。
現岐阜高校校長。岐阜市在住。

特集②

です。そんな時岐高のネットワークの強さを感じましたね。

玉井 つながりが強いですね。岐高女出身の方たちでつくられている藍水クラブという集まりがあったのですが、私が岐高出身だということで、いつもうちのお菓子を使ってくださいました。私も岐阜市のお役などいろいろな分野の集まりに参加させていただいているのですが、どこでも人のつながりがたくさんあります。同窓会のお役をさせていただくようになったのも、杉山幹夫元会長にお声をかけていただいたのがきっかけです。

自分たちも住みやすいまちづくりを

浅井 岐阜のまちづくりにもかかわっていらっしゃる方も多いですね。みなさん、岐阜のまちがお好きなんですよ。

玉井 自分の住む川原町のまちづくりの会に関わらせてもらいましたが、岐阜の良さ、日本の良さを体感してもらえらるまちづくりが実現できたと思っています。珍しく私たち住民と市の協力体制がものすごくよく、住民の意見を汲み入れてもらってできた町。そのかわり私たちも行政にお

まかせでなく、自分たちでできることは自分たちでやろうと「まちづくり協定」をつくり、門灯を付けたり、建物を造る時の取り決めを行いましたし、行政の人たちと一緒に研修に出かけては協議を重ねました。住んでいる人にとって心地よい空間が、来られた人にとっても気持ちのいい空間になるのではとないかと考え、自分たちも住みやすいまちづくりを目指しています。

木方 市内に大きな山があつて川があつて、これだけ自然のあるまちはあまりないのでは。岐阜は本当に住んでいいまちだと思います。柳ヶ瀬で生まれ育ちましたが、柳ヶ瀬は岐阜のまちとしては比較的新しいまちなんです。本当に古いのは岐阜公園のあたり。歴史が違います。岐阜は名古屋と張り合う必要はないが、名古屋からみれば30分足らずでやって来れる素敵なところです。中京圏の奥座敷のようなまちになればいいなと思っています。それに水がおいしい。東京に出た時、水のまじさに驚きました。

柳ヶ瀬を昔のように戻したいとおっしゃられる方もありますが、私はあの頃が特殊な時代だったと思うんです。確かに私が小さいころは高度成長期で映画館があつて人も多く

にぎやかなところでしたが、過去の栄光はおいといて、これからはもっと原点に戻りそこに住んで楽しく商売ができるまちになっていくのが一番いいのでは。柳ヶ瀬の住民としては、楽しく生活もできる落ち着いた新しいまちづくりを目指していきたいですね。

鹿野 高校時代はテストが終わると、必ず柳ヶ瀬に出かけていって映画を観るのが楽しみでした。当時流行っていた若大将シリーズをよく観ました。我々の時代は、岐高生だけ喫茶店に入つてもよかつたんです。

玉井 今もそうだと思いますが、岐高は昔から規制が少なかった。それも伝統であり、誇り。それから、まちなかに金華山があつて長良川のようなきれいな川があるのも岐阜人の自慢ですよ。

鹿野 あの風景は岐阜の宝物ですよ。
杉山 東京にいた頃、帰省する度に長良川の鉄橋を越えた時に「岐阜に帰ってきたんだなあ」と思うんです。自分は本巢で育つたので、山といえど池田山だったんですが（笑い）。岐阜に帰ってきて、岐阜は水と緑に囲まれた本当に住みやすいまちだなあと思います。いいまちなのに、岐阜の方は自分のまちにこだわりが少ない。もっとこだわってもいいと



岐阜市・川原町界隈

未来へ残したい岐阜

思います。もっと自分たちのまちにこだわって、そのこだわりを他の人たちともつなげていくと、きっといままちができると思うんです。玉井さんたちのようにそれぞれが役割を持って、できることをやっていくことが大事。愛着を持って自分の住むまちづくりをすれば、自分たちでずっとまちのメンテナンスもするようになると思うんです。

広瀬 私も田園地帯で育ちましたので、高校生の頃は柳ヶ瀬がにぎやかなまちに思え、人もたくさんいたように思っていたのですが大学で東京へ行って帰ってきたら、昼も夜も人通りが少なく「あれこんなまちだったかな」と（笑い）。岐阜は近くに名古屋市があるのも魅力。自然が豊かなのも名古屋とは違う。他のまちとは違うものをつくってまちづくりをすれば、人が呼べるはず。自分たちでつくっていくという心構えを持ってこれからのまちづくりをしたい。柳ヶ瀬も名古屋にはないブランドを持ったまちとして、ぜひ残していきたいまちですね。小学生の子どもがいますが、自分の子どもが大きくなった時柳ヶ瀬を知らないのはいけないと思っています。

木方 柳ヶ瀬には若い人が少ないとよく言われるんですが、小学生たちがよく

がよく社会見学に来てくれるんですよ。幼稚園の子どもたちも七夕の飾りつけをしてくれたり。子どもたちいろいろな店をまわってもらい、店の人も交流して楽しい思い出をつくってもらいたい。柳ヶ瀬が変わったといわれるのは、商売をする人たちが住まなくなると生活がなくなつたのが一番大きいのではないかと思えます。親父の時代には郊外に芝生のある家を持つのが夢だった。そこで商売は柳ヶ瀬でして、働いて働いて郊外に家を建てた。そして僕らはそこで育つたのですが、親父たちはやっぱり不便だから結局柳ヶ瀬に戻ってしまいました。ニューファミリーと昔いわれて郊外に家を建てた人たちも歳をとり、今では山の上にあるその家から行き来するのも大変になってきてしまいました。リセットするということか、もう一度まちの中に住むということを考えてみてほしいのでは。

杉山 人が住んでいれば、魚屋さんが必要だったり薬局が必要だったり需要が出てくるので、再びまちとして成立していくのではないのでしょうか。これからは便利なまちなかに住む高齢者も増えていくでしょうしね。

玉井 私たちのように、まちづくりの協定をつくられてもいいかと思

ます。

木方 まだ4万人くらいが柳ヶ瀬に自転車を通えるところに住んでいます。そういった人たちを商圏と考えれば、まだまだ柳ヶ瀬も捨てたものではないと思いますね。

鹿野 私たち教育に携わっている者、特に社会科の教員にとっては、まちづくりというのは非常に重要なことで、授業の中で地域の様子を、自信をもって子どもたちに語り掛けたいと思っています。世界に羽ばたいていく子どもを育てることも、一度羽ばたいても、その後、古里の良さを発見してUターンしてくれる人材を育てるのも我々の役目ではないかと思っています。親御さんの育て方もありますが、今の子どもたちには地元志向が強い子が多いですね。外に羽ばたいてこそ、岐阜の良さも分かれると思います。一度外に羽ばたいてから岐阜の良さを再発見して、もう一度岐阜に戻ってきてくれる人材も育てていきたいと思っています。

杉山 子どもたちには社会に役立つことがいかに大切かを学んでほしいと思います。建設の仕事をしていて現場見学会に小学生を招くこともありますが、大人になった時、社会に貢献できる仕事や、地域のまちづくりに携わってもらいたいとの願いを



写真右) 玉井博祐さん 昭和38年。
玉井屋本舗社長。岐阜市在住。
写真中) 木方伸一郎さん 昭和46年卒。
賞月堂社長。岐阜市在住。
写真左) 杉山文康さん。昭和54年卒。
杉山建設社長。岐阜市在住。

特集②

込めて話をしています。岐高はまちづくりを含めてこれからの社会のリーダーとなるべき人材を育ててもらえる学校だと思っています。

広瀬 自分もそうでしたが外へ出て行くと、岐阜がどれだけほっとするまちなのか、愛着を持てるまちなのかということがよく分かります。これからの子どもたちにもそう感じてほしいし、またこれからの岐阜がそういうまちになってほしいと思います。

岐高生へのメッセージ

浅井 これからの岐高生に伝えたいことはありますか。

玉井 岐阜高校におじゃましていつも思うのですが、昔も今も子どもたちは一生懸命勉強しているようですね。私も招いてもらったことがあるのですが、学校で芸術鑑賞会を開いたり、大学の先生を招いて話を聞いたり、先生たちも一生懸命いろいろなことをしてくださっていて、頭が下がります。勉強はもちろんですが、若いうちにいろいろな体験や経験を積んでほしい。高校生活を謳歌して、今でしかできないことをやってほしい。それが今後生きていく上でいろいろな道につながっていくと思いま

す。

鹿野 今の子どもたちは学校以外のところで、精神的な経験を積むのが少ない。昔は生活が苦しかったりして、学校以外のところでもいろんな経験ができました。そういう意味では昔の子どものほうが幸せで、打たれ強かった。今の子はハートが弱いですね。もっと開き直ればいいと思える子どもがたくさんいます。それを補うために精神的な経験を積み重ねられるようなことを学校でもやっていく必要があると思います。勉強だけでなく、何でもいから自分が興味を持てるものにもっと挑戦してほしいと思っっています。挫折しても失敗しても立ち直ればいい。ハートを強くするということはそういうことだと思えますね。

木方 岐高に入るといことは、社会を知る最初の地点だと思えます。入ってみたら自分よりすごいやつがいるのを思い知らされる。受験の結果だけを目指すのもいいが、すごいやつの中で刺激を受け、負けた経験も生かして打たれ強くなって、人間としての成長に生かしてほしい。

杉山 受験校の宿命はありますが、一度しかない高校時代なので、やりたいことをとことんやってみてほしい。そのほうが後々の人生の局面で

それが活きると思えます。青春時代の経験はかけがえのないものだと思うので、やりたいことを一生懸命やるのが大切だと思います。

広瀬 私も高校に入った途端、自分よりすごいやつがものすごい数いるということに気がついて、初めて人生の挫折を味わいました（笑い）。挫折を恐れるのではなく、挫折をはね返す力を持つてほしい。

岐高の伝統に押しつぶされることなく、挫折を経験してほしいとも思えます。もがき苦しんで社会に出た時、きつと岐高の素晴らしさが分かると思います。それを信じて今をがんばってほしい。

浅井 岐高で培ったパワーを生かしてこれからの人生を歩んでいってほしいですね。岐高の卒業生のみならずは岐阜を愛する心と、誇り、豊かなネットワークをお持ちですのでそれがきつと岐阜の未来を拓いていくと信じています。今日はありがとうございました。

今年3月、新装なった体育館



浅井彰子さん
フリーアナウンサー。
岐阜市在住。
ご子息が岐高の卒業生。

未来へ残したい岐阜

座談会を終えて

岐阜高校の卒業生は、確かに全国各地で活躍してみえますが、圧倒的に多くの卒業生は、岐阜の地で暮らしています。町を作り、人を育て、健康を守り、経済を支えて「岐阜」を支えています。私たちは、そんな方たちのお話を伺いたいと思います今回の座談会を企画しました。お忙しい中お引き受けくださり、しかも平日の夜6時からというとんでもない時間にもかかわらず、きちっと10分ほど前には全員が集まっていたいていて本当に感激でした。

対談の内容について、「岐阜の好きなところ、残したいところ、これからの岐阜がこうなつたらいいと思うところ」というテーマを提示させていただきました。とても漠然としたテーマだったかと思いますが、自由にお話ししていただきたいという思いからでした。ただ、確かにそんなこと言われてもと思われるのは当然で、「何を話したらええんや〜」とぎりぎりまで言われ、終わってからも「何を話したらよかつたんや〜」と言われ、申し訳ない気持ちでいっぱいですが、私個人的には、どのお話もわくわくする内容でした。

これもひとえに話してくださった皆さんの懐の大きさと、舵取りをしてくださった司会者の浅井さんのおかげです。岐阜の街が「奥座敷」にふさわしい品格のある、ステキな田舎町になっていくのじゃないかと思いました。住んでいる人のために街がある、自分たちが自分たちの手で支えていく地盤のしっかりした街になっていけば、岐阜県の未来も明るいのではなどと感じました。現実が厳しいことは重々わかっておりますが、ビジョンを描くことも、現実のものとしていくことも簡単ではありませんが、岐阜高校の同窓生のネットワークは大きな存在です。それは、今現役の高校生の皆さんにひきついていってほしいものです。そういう意味で、今回この対談を現役の高校生の皆さんにもぜひ読んでもらいたいと思っております。高校を卒業し、一度故郷を離れ外から岐阜を見て、また岐阜に戻って来てください。明るい岐阜県を作っていくっていい。

対談の最後に同窓生の皆さんが「いろいろな経験をすることが人間を大きくしますよ」ということをお

っしゃっています。少しだけ蛇足ながら、岐阜高校には本当に様々な才能を持った人材があふれています。大勢の友達を作ってください。あなたの隣の席の人は将来ものすごい人物になるかもしれませんよ。岐阜高校というのそういう学校です。
(会報部・櫛部啓子 昭和54年卒)





hitokoto-shu

運営委員ひとこと集・君は告リコ

日頃味わえない三世代のリアルな交流。

縁あって集まった運営委員会メンバーの独白を聞いて下さい。

facebook に象徴されるように、ヴァーチャルに世界中とつながれる時代です。

兎に角、写真、コメントで自分のこと発信してみましょう。



運営委員会 「財務部」

部長：大脇喜久子
 居住地：岐阜県内、その他
 卒業年度：昭和 44 年、昭和 54 年、平成 1 年



運営委員会 「事務局」

局長：酒井良久
 居住地：岐阜県内、その他
 卒業年度：昭和 44 年、昭和 54 年、平成 1 年

松野（旧姓安江）正恵さんがメッセージを書き込みました。
 (昭和 54 年卒)

入学したての頃、みんないっしょだと思いますが、授業の速度が早く戸惑っていました。その中で、有無も言わず予習に励んだ授業がありました。それは金武先生の数学です。やくざと思うような風貌と言動、恐ろしくて当たりませんようにと祈りながらピクピクしていました。岐高の先生の中でも相当な変わり種でした。今はあんな先生いないですね。今の子供たちに金武先生の授業を受けさせてみたいな、と思います。

神谷慎一さんがメッセージを書き込みました。
 (平成 1 年卒)

百折不撓を歌い上げる校歌は、いささか時代に不似合いとも思えるが、本当によく歌った。英語が苦手だった私は、親単と山貞には本当に苦しめられたが、今もなお、この 2 冊は私の書棚に並んでいる。ほろ苦い思い出ばかりだが、桜の校章はお気に入りだった。

大脇喜久子さんがメッセージを書き込みました。
 (昭和 44 年卒)



昭和44年卒で岐阜市在住の税理士が、偶々私一人ということで財務部の責任者を仰せつかりました。さて、思い出のひとつは校内マラソンです。男子は合渡橋までの往復、女子はその半分だったでしょうか。私は10位以内に入りました。本来は女子の入賞は3位までなのに手違いで幸運にも表彰を受けてしまいました。体育実技が苦手だった私としては幸せな出来事でした。

酒井良久さんがメッセージを書き込みました。
 (昭和 44 年卒)

無職となって、早くも三年の月日が経ちました。遊びに付き合っていただけなのは、44卒で構成する「千円会」のメンバーが中心です。感謝・感謝…です。酒と麻雀を愛している方は、「オフィス・ゼロ」へ是非ともおいで下さい。お待ちしております。



川尻（旧姓石神）智子さんがメッセージを書き込みました。
 (昭和 54 年卒)

岐高に入学して間もなく、定期券を落として受け取りに行った時の事。「これあげようか？」と、当時人気のアイドルのプロマイドを見せながら、お店の人が一言。たまたま興味がない人物だったので、「いえ、結構です」と断ると、「さすが岐高生。アイドルなんて興味ないよね？」と言われた。…しまった！ここは貰っておくべきだった〜と思うも後の祭り。可愛げのない岐高生と思われたでしょうね！？



運営委員会 「総務部」

友達

メッセージを読む

メッセージを送る

部長：石樽芳直

居住地：岐阜県内、その他

卒業年度：昭和 44 年、昭和 54 年、平成 1 年

信下三幸さんがメッセージを書き込みました。
(昭和 44 年卒)

岐高での三年間の思い出は、生来天然な性分によるものか、楽しかったことしか思い浮かばない。そんな私ですが、縁あって、昨年に引き続き同窓会運営委員に関わることとなりました。一人の力量では限りがありますが、多くの仲間と共にならば、大きな力になることを昨年改めて実感させていただきました。今年も多くの運営委員が協力してくれています。もう一度あの感激を味わうことができます。感謝です。ありがとう。

稲垣豊子さんがメッセージを書き込みました。
(昭和 44 年卒)

○母でなく妻でもなき日の懐かしき名前と呼ばれん同窓会場
○歳月の長さ重さは一瞬に少女少女に還りに集う
○人それぞれ歩みし道は異なれど同じ思い出にひたる幸せ
同窓会の事務に関わって、40年以上前の自分に戻ることができる時間を楽しんでいます。6月10日は出席できませんが、44年度卒の皆さん、これからもよろしく。

割山隆昭さんがメッセージを書き込みました。
(平成 1 年卒)

私もあれよあれよという間に、40歳を過ぎました。今は、仕事・家庭等、守るものが多く、高校生時代の、まだ見ぬ未来に心ときめかせ、怖いもの知らずに、何事にも、チャレンジしていく自分を懐かしく思います。昔の仲間と再会するまでは、人生もほぼ決まってしまう、何事もなく、平穩に目を閉じるのだらうと思っていましたが、また、何かにチャレンジして、もう一華咲かせてやろうと元気の種を頂きました。
“さあ、私のこれからの人生に、乞うご期待！”

総務部のメンバーが写真をアップしました。

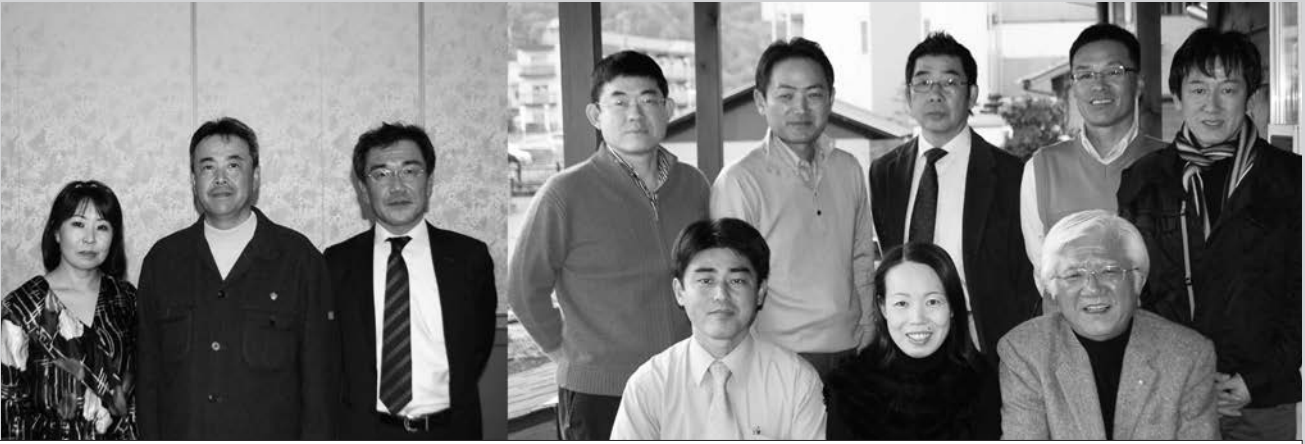


石樽芳直さんがメッセージを書き込みました。
(昭和 44 年卒)

オーロラを觀に、フィンランド北極圏のサンタの町としても知られるロバニエミを今年1月に訪ねた。北極星がほぼ天頂にあり、四季の星座が同時に觀られる夜空を3日間見続けたが、オーロラ出現の3条件に恵まれず、僅かに北の低い位置に白い帯状のものが少し緑がかって色が変わるのが見えたのみ（どうやらこれがオーロラか?）。ローマ神話の暁の女神・オーロラはまた会いにいらっやいと微かに微笑んだのみであった。

大野通敏さんがメッセージを書き込みました。
(昭和 54 年卒)

魂を揺さぶられる文章に、めぐり合いました。
「『自分は間もなく死ぬ』を意識し続けることは、『何かを失う』と思わずに決断する最善の方法である。なぜなら、死を前にしたら、すべての煩惱は消えてしまうから。」「自分の“内なる声”に従う勇気を持つ。」これは“世界を変えた男” Steve Jobs氏演説の一部です。禅やヨガを通して実感していたことを、見事に言い当てていました。芸術と汎用の両立を具現化された氏の言葉に、烈しく鼓舞されました。



友達

メッセージを読む

メッセージを送る

近藤由香さんがメッセージを書き込みました。
(昭和 54 年卒)

ひょんなことから広告部部長の大役を仰せつかってしまいました。その日から、何とも言えない重圧がのしかかりました。しかし、経験豊富な諸先輩、若くて頼もしい後輩、そして学生時代にはお話をする機会がなかった多方面で活躍中の同級生に出会えて、重圧もなんのその、素晴らしい経験をさせていただき喜びと感謝の気持ちでいっぱいです。そして、広告協賛をいただいた方々に心より厚く御礼申し上げます。

関谷憲市さんがメッセージを書き込みました。
(昭和 54 年卒)

還暦へのカウントダウンが始まりました、最近もう若くないんだなという言葉が胸の奥まで響いてきます。60歳になったら悠々自適で趣味に生きたいと思っていたのに、年金すらいつからもらえるのか果たしてもらえないのか分かりません。未来を憂うよりは今を幸せに生きる事を選ぼうと言い訳をして、仕事は程々に趣味にせいでし貧乏暮らしを楽しんでいる私です。

下野信重さんがメッセージを書き込みました。
(昭和 44 年卒)

広告部会は優秀で勤勉な54卒と元年卒の皆さんが頑張ってくれています。44卒は口先介入のみで楽させてもらっています。松田委員長は名前だけ借りる約束にもかかわらず、総合ディレクターとして素晴らしい活躍ぶりです。総会終わったら胴上げしたいです。

杉山幸男さんがメッセージを書き込みました。
(昭和 54 年卒)

どういう訳か運営委員であるので大変恐縮しています（もっと真面目に役目を果たす人がいるだろうと思うので）。高校のことは野球部でのことがすべてかのように記憶が薄れつつあります（真面目だったという記憶すら消えつつある、誰も言ってくれないから）。もっとも野球の練習後には必ず校歌を歌っていたので、校歌だけは忘れない。

伊在井みどりさんが写真をアップしました。
(昭和 54 年卒)



橋本俊幸さんがメッセージを書き込みました。
(昭和 54 年卒)

広告委員長の近藤由香さんとの繋がり、委員の端に名を連ねさせて戴きました。全体の同窓会に先立ち、我々昭和54年卒の同窓会が、今年1月2日に開催されました。卒業して早33年。受付で声を掛けられ、思わず恩師？と言いつつになった風貌の奴も。しかし、会が始まると、33年の時間が一瞬に消え去り、高校時代の思い出をつい昨日の事のように語らいました。我が家は、二人の子供達も岐高卒です。女房は他県卒ですが、我が高校を絶賛、殆ど岐高卒の様な振る舞いです。我々は、学校群時代の世代でしたが、本当に岐高に回して貰って感謝！



運営委員会 「広告部」

部長：近藤由香

居住地：岐阜県内、その他

卒業年度：昭和 44 年、昭和 54 年、平成 1 年

金神直美さんがメッセージを書き込みました。
(昭和 54 年卒)

広告部のお手伝いをさせて頂いて役員の方々のご苦勞を改めて痛感しました。この不況の折りに広告なんて払える余裕無いとお断りされる方が多々ある中で本当に快く母校の為に、役員のお手伝いは出来ないけれど広告位ならとご協力頂いた方々、母校じゃないけど協力させて頂くよと広告を出して頂いた方々に心より感謝申し上げます。

平井浩三さんがメッセージを書き込みました。
(昭和 54 年卒)

この度の広報部の活動を通じ、岐阜高校同窓会の絆の強さを改めて感じる事が出来ました。現在、岐阜高校野球部のコーチとして現役の学生とふれあい同窓会の良さも伝えたいと考えています。今回の活動に参加できたことに感謝しています。

松野高さんがメッセージを書き込みました。
(昭和 54 年卒)

お役に立てるなら引き受けたものの広告集め(金集め)がこんなに大変だとは。厳しい時期にご協力いただいた皆様に深謝。

河合(旧性藤原)学さんがメッセージを書き込みました。
(昭和 44 年卒)

伊奈波中学校より目指していた岐阜高校へ入学したのは昭和 41 年の春。岐阜国体の直後でもあり近辺のインフラも整備された頃、そして何よりも学校帰りによく立ち寄った柳ヶ瀬には映画館、そして“純喫茶”と誠に賑やかな時代でした。原稿を依頼されて、そんな時代を懐かしく思い出した次第です。同窓会総会の設営ホスト年度の方々には感謝申し上げます。

森嶋将隆さんが写真をアップしました。
(平成 1 年卒)

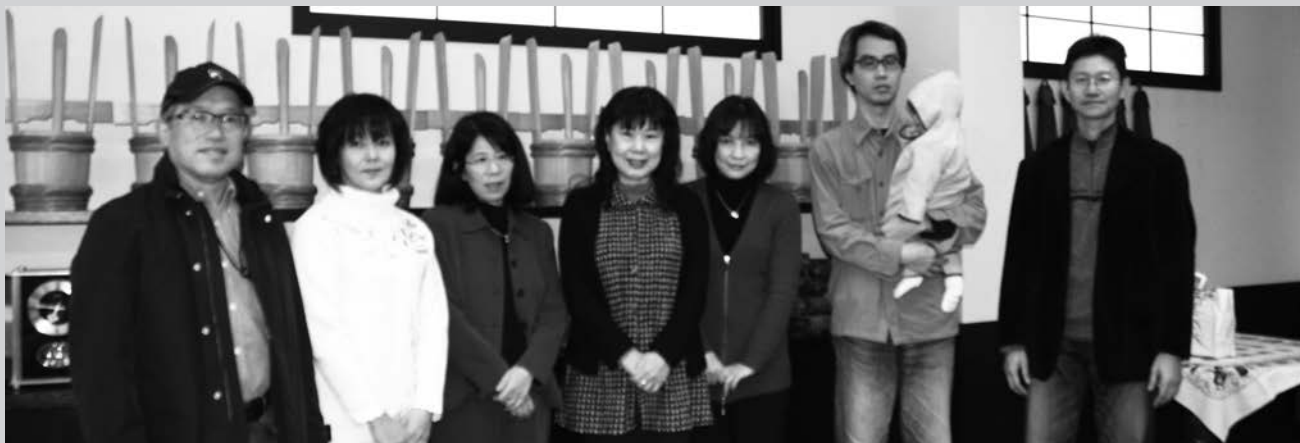


岩田吉弘さんがメッセージを書き込みました。
(昭和 54 年卒)

広告担当に参加させていただき感謝しています。近藤さんから言葉をかけていた時は、少し抵抗がありましたが、いつもと違うメンバーに会え、微力ながら同窓会の運営に参加でき、良かったです。会のみなさん、特に、トップの近藤さん、指導力・実行力に富んだ杉山さんには頭が下がります。ありがとうございました。

広瀬修さんがメッセージを書き込みました。
(平成 1 年卒)

今回、同窓会委員をさせていただきまして、母校の凄さを感じることができました。それは、単純に伝統や歴史だけでなく、各方面の第一線で活躍されている方の多さを改めて実感したからです。卒業生としての幸せ、そして同窓会委員をさせていただいたことに、たいへん感謝しています。



友達

メッセージを読む

メッセージを送る

村橋（旧姓華井）祥衣さんがメッセージを書き込みました。
(昭和 54 年卒)

あまくせつない金木犀の香りが大好きで、花の頃にはつかの間の至福の時を過ごしつつ、思い出すのが高校時代。当時は二期制。9月の最終週に前期の期末試験が終わり、二日ほどの試験休みがけると、迷走解答の試験結果がずうんと重く心を沈める。市電を降りて岐高まで歩く道のりには、金木犀を植えているお宅が多く、その香りの中、高校に到着すると、既に気持ちは金木犀・・・習わずして、アロマ効果を体得していたようだ。

棚橋典広さんがメッセージを書き込みました。
(平成 1 年卒)

クラス分けが発表され、名簿で自分の名前を探しました。小中学校時代は10番前後だったのですが、そのあたりに名前はありません。ようやく見つけた自分の名前は26番。「あれっ?」と思うと、最後まで男の名前。ショックでした(笑)あれから20数年後、岐阜高校に出張する機会がありました。偶然にもその日の夕方、同窓会運営委員会への参加を促す電話があり、何かの廻りあわせだと思い参加させていただきました。

長谷川弘幸さんがメッセージを書き込みました。
(平成 1 年卒)

高校を卒業して23年がたち、縁があり同窓会の仕事をさせていただいた。その際に高校に行く機会をいただいた。そこには当時の校舎はすでになく、素敵な建物が上品に行んでいた。3年間男子クラスの私には、土埃・汗臭い・弁当臭い、黒い制服の教室しか思い出がないため全く別の世界に来てしまったようだった。当時の思い出を懐古することが出来た10ヶ月間でした。

八太敬子さんがメッセージを書き込みました。
(平成 1 年卒)

26年前、今は亡き祖父母や両親がとても喜んで祝福してくれた高校入学でした。桜の校章を胸に希望に満ちていた当時は、今でも甦ってきます。三年間はとても楽しかった記憶ばかりで、厳しい先生の授業の予習に追われたことや、テストの不出来に落ち込んだことさえ、今では良き思い出です。今回、久しぶりに懐かしいメンバーに再会できることを楽しみに、及ばずながら何かしらお手伝いできれば・・・と思っています。

堀部ひろみさんがメッセージを書き込みました。
(昭和 44 年卒)

同じ学年だったのに初めて(?)お目にかかる人、10年・20年若い人。会報部の面々から次々と出てくる会報誌のアイデア。そのパワーにただただ圧倒されていました。きっと素敵な会報誌になると思います。こうして一緒に取り組めるというのも不思議なご縁ですね。これを機会に、これからも交流が深められたらいいなあと思っています。よろしくね。

野村淳子さんがメッセージを書き込みました。
(昭和 54 年卒)

あれからもう10年、2度目の会報部参加です。個人的には難題山積みの中での参加で、不安もいっぱい。みなさんに迷惑をかけながら、できるだけ体力気力温存につとめてきましたが、そろそろ限界かも。10年後にはどうなっているのでしょうか。(の)



運営委員会 「会報部」

部長：櫛部啓子

居住地：岐阜県内、その他

卒業年度：昭和44年、昭和54年、平成1年

櫛部啓子さんがメッセージを書き込みました。
(昭和54年卒)

私のこれまでの人生で高校時代の3年間だけが、やたら何にでも挑戦し、身の程知らずにも遊びまくった日々だった。「躁鬱」でいうなら「躁」だった。何をしても楽しかった。部活動は軟式テニス、書道、天文と三つもかけもちしていた。最たるモノが生徒会立候補だった。今振り返ると恥ずかしくて叫びたくなる。

三田清次さんがメッセージを書き込みました。
(昭和44年卒)

思えば三週り目の「輪番」です。下野君らの努力で続いてきた「千仞会」が中核となってお役目を果たしてきました。いよいよLast Missionかと思うと、万感胸に迫る思いがします。職業柄、三度とも何らかの形で『会報誌』の編集に関わらせていただきました。今回、素敵なスタッフと一緒に仕事ができたこと、良い“異土のみやげ”いやいや「誇り」に思っています。

会報部のメンバーが写真をアップしました。



柴田安寛さんがメッセージを書き込みました。
(平成1年卒)

会報部の会合、白扇酒造さんの取材で、初めて知り合わせていただいた先輩方とふれあう機会ができ、高校時代に部活動もしておらず、年次の違う知り合いがほとんどいない私にとっては貴重でした。知り合った先輩方はそれぞれ生き生きとしてみえました。自分もそうなっていきたいと、刺激になりました。

小島晴世さんがメッセージを書き込みました。
(昭和54年卒)

忠節橋から見る長良川の夕焼け、新体育館の階段から遠く眺めた雨に煙る家々、授業中私の視線を釘付けにした瑞々しい新緑の木々、大好きな先輩や仲間たちと過ごした生徒会室、ゴムの木、見守って下さった先生方、プライベートな雑談にもワクワクして聞き入った国語の時間、いつも眠気に勝てなかった受験勉強、歩きながら笑い転げて図書館に通った道、共に過ごした友人たち—思えば幸せな高校時代でした。

堀野悦子さんがメッセージを書き込みました。
(昭和44年卒)

2月の午後、会報部の座談会取材で岐阜高校を訪問しました。校舎の中は、美しい木の廊下が続き、昭和44年頃の面影はありません。しかし、この学舎の中でも高校生の青春が展開されていることでしょう。私の17歳の時と同じように。昭和44年卒3年8組は、運動場にタイムカプセルを埋めました。残念ながらその場所が分からなくなり、掘り出していませんが、私の淡い思い出と共に埋まっています。そんな追憶の岐高訪問でした。



運営委員会 「動員部」

友達

メッセージを読む

メッセージを送る

部長：森 雅幸
 居住地：岐阜県内、その他
 卒業年度：昭和 44 年、昭和 54 年、平成 1 年

河村都以さんがメッセージを書き込みました。
 (昭和 44 年卒)

「国破れて山河あり」岐高生時代の古典の時間に、教室の窓から遠くの景色を垣間見ながら、皆で元気な声を合わせて音読した杜甫の『春望』。あれから 40 年、遷厝をパスした私達 44 年卒業生の、最後の総会当番です。総会当日、一人でも多くの同窓生の皆様にお会いできることを楽しみに、お手伝いさせていただきます。「千仞の嶽、金華山、百里の水、長良川」と、岐高生時代と変わらぬ、美しい姿の郷土の自然に心から感謝しながら。

須原貴志さんがメッセージを書き込みました。
 (昭和 54 年卒)

我々の学年は今年の 1 月 2 日に学年同窓会があったばかりなので、半年後にまた会いたい気持ちにさせるべく学年同窓会を盛り上げ、総会参加を呼び掛けるプレゼンテーションをし、さらに運営委員の同級生にチラシを作っていただきまして配布してもらいました。また、会場部の皆様にも無理を申しましてアトラクションを当学年が興味を抱く内容にさせていただきました。…努力が報われるとよいのですが…とても心配です。

可児吉康さんがメッセージを書き込みました。
 (平成 1 年卒)

今回、同窓会の幹事をやらせていただき、ご縁や人と人とのつながり、その大切さを改めて感じることができました。このつながりを大切に、後輩である塾生にも伝えあげていきたいと思ひます。

森 雅幸さんがメッセージを書き込みました。
 (昭和 44 年卒)

先日、岐高の土堤の上を通りましたが、昔の面影はありませんでした。高校入学の時の満開の桜、土堤での着替え、古いプール、バスケットの 2bound 遊び、通学時愛用の自転車、母の弁当と授業中の早弁、購買部のハムカツサンド? 等思い出されました。短く感じた高校時代ですが、充実した懐かしい時間でした。有難う岐高!

宇野嘉弘さんがメッセージを書き込みました。
 (昭和 54 年卒)

今年は学年の同窓会が正月に有り、新築校舎の見学会に参加致しました。私たちの頃とは格段に環境が良くなり、公共ホールのような教室でビックリしましたが、あの高校三年間と何回もセンター試験監督で寒中を過ごした校舎がなくなったのはセンチメンタル(死語でしょうか?) な不思議な気分でした。母校に益々の栄光あれ!

水野朱美さんがメッセージを書き込みました。
 (昭和 54 年卒)

あわただしく一日が過ぎていく毎日ですが、一緒に笑ったり 泣いたりできる家族や友人に恵まれていること、日々あたり前の生活が営めることに感謝して過ごしていきたいですね。

武藤直美さんがメッセージを書き込みました。
 (昭和 54 年卒)

先日、友人 2 人とランチをしました。2 人とも岐高出身です。ひとり卒業以来会っていませんでしたが、顔を見ればあの頃と変わりなく、すぐに高校時代の思い出話に花が咲きました。同じ学舎で過ごした友人はかけがえの無いものだ改めて感じました。そして、このように懐かしい再会や、卒業年度を越えた繋がりがこの総会で出来ればと思ひます。

馬場美穂さんがメッセージを書き込みました。
 (平成 1 年卒)

動員部として総会のお手伝いをさせていただき、卒業して 20 数年が過ぎましたが、当時の思い出が甦ると同時に、諸分野で活躍されてみえる方の多さに母校の伝統の力を感じました。恩師、同級生、先輩方と楽しいひと時を過ごしていただけたらと思ひます。



運営委員会 「会場部」

[友達](#)
[メッセージを読む](#)
[メッセージを送る](#)

部長：岩佐 徹

居住地：岐阜県内、その他

卒業年度：昭和 44 年、昭和 54 年、平成 1 年

三尾（旧姓梅原）弘子さんがメッセージを書き込みました。
(昭和 54 年卒)



毎日通勤で堤防を通るため、岐高の新校舎も外からは見慣れてます。でもイメージの中では、校舎の中はぼろぼろのあの頃のまです。校舎は古くても生徒は輝いていましたよね。今のびかびかの校舎で過ごす生徒も輝いていきますように。

河口素子さんがメッセージを書き込みました。
(平成 1 年卒)

岐阜高校放送局員だったご縁で本日の司会をさせていただくことになりました。お昼の放送を週一回担当していた頃が懐かしく甦ります。あの頃から色々なことがありました。これからも色々なことがあると思われますが、私の礎はあの頃に出来たのかと。そんな方がたくさんいらっしゃると思われます。楽しい時間を過ごすことができたと思っただけのよう、ふつつかな司会ながら頑張りますので、よろしく願い申し上げます。

撰 和彦さんがメッセージを書き込みました。
(昭和 54 年卒)

どういった選考基準があるのか未だに不明だが3年間男子クラスで過ごした。異性にアピールできる場は教室には無く、バンド活動に全精力を傾けるしか無かった。文化祭では4回のステージとプラスバンドに出演。勢い余ってプロにまでなってしまったが、これは3年間の飢えを芸術に昇華し乗り切った賜物である。ここに我が百折不撓の精神あり。

佐治木ゆかりさんがメッセージを書き込みました。
(昭和 54 年卒)

この3月に次男の卒業式が真新しい体育館で行われました。長男次男と6年間岐阜高校でお世話になり校舎の移り変わりを見届けることができました。長男の入学時には自分達の頃と全く変わっていない校舎に驚きつつも何ともいえない懐かしさを感じたものでした。今はその面影さえありませんが新しい校舎は岐阜高校の輝かしい未来につながり、そこにある桜のDNAはこれからも引き継がれていくことでしょう。

仙石勝美さんがメッセージを書き込みました。
(昭和 44 年卒)

S41年4月岐高入学、県下トップ校というステータスの満足感と不安感、度重なる試験の挫折感、大人への過程での恋心、良き友との出会い等、多感な3年間のことは今尚鮮明だ。聞くに江戸の藩校、維新後のナンバーズクール、戦後の新制高校の名門という伝統とその地方の人材が日本を支えてきた。我々もそこに少しは触れている気もする。こよなく岐阜を、長良の水を、素敵な仲間たちを愛し、往時の感覚を維持しつつ新風も吹かせたい。

小野島容子さんがメッセージを書き込みました。
(平成 1 年卒)

総会のお手伝いをさせていただき、多くの方と連絡が取れたりお会いできたりと嬉しい限りです。卒業して20年以上経ってもあの頃の感覚に戻れるのが本当に不思議です。今は記念碑となったプールの思い出を一つ。ある日プールに行くと…中庭のコイたちが何者かに放流されていました。メガホンとプールサイドに転がっていたバケツで必死に追いかけて何とか捕獲。疲労度は普通の練習以上でした。